

2025（令和7）年度  
大学院シラバス  
博士後期課程

人間環境大学  
大学院 松山看護学研究科

Graduate School of Nursing at Matsuyama  
University of Human Environments



## 目次-博士後期課程-

科目区分	授業コード*	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	記載ページ
				必修	選択		
共通科目(必修)	EDA0101	高度看護学研究特論D	1前		2	河野 保子 佐伯 由香	1
(選択科目)	EDB0101	人体機能生理学特論D	1通		2	本田 和男 佐伯 由香	4
	EDB0201	疼痛制御薬理学特論D	1通		2	佐伯 由香	6
	EDB0301	ストレスコーピング特論D	1通		2	別宮 直子 中島 紀子	8
	EDB0401	世代継承性看護特論D	1通		2	河野 保子	10
	EDB0501	実践・改革的地域包括ケアシステム論D	1通		2	中島 紀子 羽藤 典子 赤松 公子 宮崎 博子	12
看護実践開発領域	EDC0101	基盤看護学開発特論D	1前		2	河野 保子 中島 紀子	14
	EDC0201	基盤看護学開発特別演習D	1後		2	河野 保子 中島 紀子	17
	EDC0301	リプロダクティブヘルス看護学開発特論D	1前		2	高田 律美	20
	EDC0401	リプロダクティブヘルス看護学開発特別演習D	1後		2	高田 律美	23
	EDC0501	小児看護学開発特論D	1前		2	三並 めぐる 羽藤 典子	26
	EDC0601	小児看護学開発特別演習D	1後		2	三並 めぐる 羽藤 典子	29
	EDC0701	成人看護学開発特論D	1前		2	佐伯 由香 本田 和男	32
	EDC0801	成人看護学開発特別演習D	1後		2	佐伯 由香 本田 和男	34
	EDC0901	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	河野 保子	36
	EDC0902	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	佐伯 由香	39
	EDC0903	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	三並 めぐる	41
	EDC0904	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	本田 和男	
	EDC0905	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	高田 律美	43
	EDC0906	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	中島 紀子	
	EDC0907	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	羽藤 典子	
	EDC1001	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	河野 保子	45
	EDC1002	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	佐伯 由香	47
	EDC1003	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	三並 めぐる	48
	EDC1004	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	本田 和男	
	EDC1005	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	高田 律美	50
	EDC1006	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	中島 紀子	
	EDC1007	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	羽藤 典子	
	EDC1101	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	河野 保子	53
	EDC1102	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	佐伯 由香	
	EDC1103	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	三並 めぐる	55
	EDC1104	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	本田 和男	
EDC1105	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	高田 律美	57	
EDC1106	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	中島 紀子		
EDC1107	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	羽藤 典子		
地域包括ケア領域	EDD0101	地域包括高齢者看護学特論D	1前		2	赤松 公子 岡 多枝子	59
	EDD0201	地域包括高齢者看護学特別演習D	1後		2	岡 多枝子 赤松 公子	61
	EDD0301	地域包括精神看護学特論D	1前		2	別宮 直子	63
	EDD0401	地域包括精神看護学特別演習D	1後		2	別宮 直子	65
	EDD0501	地域包括在宅ケア特論D	1前		2	田中 正子 宮崎 博子	67
	EDD0601	地域包括在宅ケア特別演習D	1後		2	田中 正子 宮崎 博子	69
	EDD0701	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	岡 多枝子	
	EDD0702	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	赤松 公子	73
	EDD0703	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	別宮 直子	75
	EDD0704	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	田中 正子	
	EDD0705	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	宮崎 博子	
	EDD0801	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	岡 多枝子	77
	EDD0802	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	赤松 公子	79
	EDD0803	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	別宮 直子	80
	EDD0804	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	田中 正子	
	EDD0805	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	宮崎 博子	
	EDD0901	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	岡 多枝子	82
	EDD0902	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	赤松 公子	84
	EDD0903	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	別宮 直子	85
EDD0904	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	田中 正子		
EDD0905	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	宮崎 博子		

授業コード	EDA0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目(必修) EDA01				研究教育力	○
授業科目名	高度看護学研究特論D	選択・必修	必修		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	河野保子 佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉分野で生起する看護現象に対して、看護学の学問的發展に貢献できる研究者として研究の「問い」や研究手法を学修するとともに、看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究設計を行うことを目的とする科目である。自研究テーマの研究計画と、自己の研究の遂行と継続に必要な思考への示唆を得るための科目とする。各分野の教員自身の研究内容と方法、臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(河野保子/8回) 看護研究における博士論文の新規性・独創性・社会的価値について論述する。看護研究と実践援助の往還的研究内容の重要性を概観し、博士論文の研究の「問い」について説明するとともに、研究の「問い」に対する研究手法の重要性を論じる。また、博士論文の基本構造と科学的・論理的な論述方法について詳述する。そのため(1) 看護研究、博士論文における新規性・独創性・社会的意義(2) 研究倫理、及び研究倫理審査会(3) 研究の「問い」の重要性(4) 博士論文の基本構造と科学的・論理的・創造的論述について教授する。</p> <p>(佐伯由香/7回) 研究計画、及び研究倫理について、データ収集に着手するまでのプロセスと、具体的な研究の社会的価値等の論述方法について、自研究の展開から詳述する。データ収集から博士論文作成までのプロセスと研究倫理について、自研究プロセスなどから論述する。研究論文の公表について、計画的・戦略的に研究活動を遂行することの重要性について論述する。そのため(1) 自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法(2) 研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際(3) 自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味(4) 論文審査、及び論文公表のプロセスについて教授する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:10-14:40)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	博士論文とは	博士論文とは 博士論文を書くということ ・ディスカッション	【事前】なぜ博士論文を書くのかについて自問する。【事後】博士論文作成の意義について考える	・看護学における博士論文の数編を提示する ・看護研究47巻4号—博士論文を書くということ—医学書院、2014		
2	研究の意義	看護の現象・事象の可視化 看護実践、研究、理論の関係性 研究の新規性、独創性、社会的価値 ・ディスカッション	【事前】修士課程教育の看護研究について振り返りをしておく。【事後】看護研究の意義を再確認する。	オリジナル資料配布		
3	研究の「問い」	教育、実践、管理から生まれる疑問 研究の「問い」；リサーチクエスト とは ・ディスカッション	【事前】自身のキャリアから疑問を見つける。【事後】リサーチクエストから研究計画につなげることを理解する	・中原淳のラボ紹介文 ・オリジナル資料配布		
4	研究の「問い」に対する研究手法	リサーチクエストの精練 それは何か？(質的研究) どのように起こっているか(実態調査研究) それらに関連はあるか(相関研究) 介入は効果があるか(準)実験研究 ・ディスカッション	【事前】研究的問いをいくつか考えておく。【事後】リサーチクエストの重要性について理解する。	・オリジナル資料配布		
5	博士論文の基本構造	博士論文は「構造を書くこと」である	【事前】自身のリサーチクエストの概略をイメージする。【事	・中原淳のラボ紹介文		

		・ディスカッション	後】博士論文の基本構造について理解する。	
6	研究倫理審査	・研究における倫理の考え方と対応 ・研究対象者の権利と倫理審査体制 ・ディスカッション	【事前】看護研究を行う人の自覚を再認識する。【事後】倫理審査委員会による審査を受けることの重要性を自覚する。	・南 裕子、野嶋 佐由美編集
7	論文投稿・査読	博士論文の基本構造図の中から、小RQ（小リサーチクエスション）について研究論文として纏める研究論文の構成方法 学術雑誌への投稿・査読を受ける ・ディスカッション 〈特別招聘講師による事例演習〉	【事前】事前に手渡す論文を読んでおく。【事後】自身の博士論文の構造図をイメージし、どの部分が副論文として投稿できるかを考える。【事後】投稿論文・査読の厳しさを自覚し、副論執筆に対応する。	・河野理恵他著
8	論文クリティーク	・文献検討の意義 ・文献検索 ・文献の読み方 ・クリティカルな読み方 ・ディスカッション	【事前】クリティカルシンキングについて再認する。【事後】クリティカルな論文の読み方について知識を持つ。	・南 裕子、野嶋 佐由美編集
9	科目リエンション、	研究設計	自研究の課題と方向性を思い描いておく。事後は自己研究課題について省察する。	必要資料は配布。
10	研究の意義と価値	自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法		
11	研究倫理に必要な項目	研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際	研究倫理について調べておく。先行研究の倫理的配慮のクリティーク。	
12				
13	論文の構成と章立て	自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味	論文の構成について調べておく。先行研究の構成を確認する。	
14				
15	論文審査のプロセス	論文審査、及び論文公表のプロセスを教授する。	論文審査の視点を調べておく。本研究科の論文審査の頁を確認する	
16	試験			
教科書・参考文献など				
南 裕子、野嶋佐由美 編集:看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、2017. D. F. ポーリット他:看護研究, 原理と方法, 医学書院, 2010. 10, 450円 山川みやえ他:よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版:研究手法別のチェックシートで学ぶ, 日本看護協会出版会, 2020. 3, 520円 ・河野理恵他著:準限界集落に居住する高齢者の生活満足度に影響を及ぼす身体・社会・心理的要因の検討—共分散構造分析による因果モデルの構築、高齢者のケアと行動科学、第27巻、21-38、2022.				
最終到達目標			評価方法	
①必要な情報を収集・整理して、解決すべき研究課題が明確化できる ②研究課題を解決するために、有効かつ適切な研究の「問い」を見極められて、「問い」に対する適切な研究手法を導き出すことができる③博士論文の基本的構造が理解できる④博士論文に求められる新規性・独創性・社会的価値について理解できる ⑤看護研究における倫理的配慮について説明できる⑥自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法⑦研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際⑧自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味 ⑨論文審査、及び論文公表のプロセスについて理解できる			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準: 評価基準:評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点):到達目標を達成している(Very Good) B(79~70点):到達目標を達成しているが、不十分な点がある(Good) C(69~60点):到達目標の最低限は満たしている(Pass)				

D(60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F : 出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDB0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB01				研究教育力	○
授業科目名	人体機能生理学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	本田和男 佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
看護研究の実施にあたっては、日進月歩で進化している最新の医学情報にも精通しておく必要がある。この科目では、まず医学研究の基礎となる分子生物学の歴史をふりかえり、その後のさまざまな医療の分野における発展についてわかりやすく解説する。報道などで取り上げられる最新医療に関するトピックスも、十分理解出来るように基本的知識を更新する。						
<b>授業の概要</b>						
<p>毎回配布する資料を参照しながら、分子生物学の発展の歴史、ゲノム診断、分子標的治療、オーダーメイド医療、癌治療の歴史、手術療法、化学療法、免疫療法、臓器移植の基礎、歴史、肝移植、再生医療などについて、具体的にどのような進展があったのか、またさらに克服すべき問題点などをわかりやすく講義する。疑問点に関する質問には個別に対応し、社会的に注目されている話題についてディスカッションする。評価は筆記試験で行うが、必要に応じて課題を提示し、各自のプレゼンテーション、レポート提出などにより理解を深める。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 10：50-12：20）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	分子生物学の発展とその臨床応用	分子生物学の基礎とゲノム解析 サンプル採取と倫理問題 遺伝子診断、分子標的治療 オーダーメイド医療	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
2						
3						
4						
5	癌治療のあゆみと今後の展望	生物学的特性の解明 根治術、転移病巣への対応 内視鏡治療、ロボット手術 抗癌剤の開発とその歴史 癌免疫の考え方とその発展型	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
6						
7						
8						
9	臓器移植の歴史と臨床	移植免疫の担い手 腎移植、心臓移植、肝移植 国内での動き、生体肝移植	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
10						
11						
12	再生医療の基礎と臨床	幹細胞、ES細胞、iPS細胞 臨床応用（心筋、網膜、脊髄）	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
13						
14						
15	試験					
<b>教科書・参考文献など</b>						
毎回、理解に必要な関連資料を配布する。						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
最新医療に関するキーワードについて、学部学生が理解出来るような解説文（400字程度）を書くことができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験（60%）・課題レポート（20%）・プレゼンテーション（20%）		
<b>評価基準・評価基準</b>						

履修判定指標：

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDB0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB02				研究教育力	○
授業科目名	疼痛制御薬理学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
疼痛はどの年代でも起こりうる身体症状であり、他者には理解しがたい影響を個人に及ぼしている。疼痛は生活の質の低下に直結し、慢性化することで社会的な損失にもつながっている。本科目は、疼痛の発現メカニズムからその発現の生理学的知識を修得し、各種疼痛緩和のために薬理的知識を修得することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
痛み発症のメカニズム（痛み刺激の受容とその伝達、痛みを修飾・調節する機構）を理解し、痛みの難治化、難治性疼痛、がん性疼痛の発現機序を理解し、疼痛緩和で使用される薬剤の主作用と副作用の作用機序、および疼痛コントロール方法について理解を深める。疼痛緩和・薬物療法中の患者に対する疼痛評価と薬物コントロール等について集学的に学修し、看護実践への活用・応用についてディスカッションする。 （オフィスアワー：授業終了後～90分）						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション 痛みの仕組み （疼痛発症のメカニズムと制御）	痛みの定義、痛みの生理学的価値などについて講義と討議で理解を深める。	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
2						
3						
4						
5	疼痛による身体への影響	痛みによって身体にどのような影響が生じるか理解を深める。また、痛みが難治化するメカニズムを理解するとともに中枢神経系における痛みの制御機構を講義と討議で理解する。	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
6						
7						
8						
9						
10	疼痛の薬物療法	疼痛緩和に使用される各薬物について、その作用機序や副作用、使用上の注意点について講義と討議で理解を深める。	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
11						
12						
13	非薬物療法と看護実践	看護実践において応用できる非薬物療法について講義と討議で理解を深める。	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
14						
15						
16	試験					
<b>教科書・参考文献など</b>						
毎回、理解に必要な関連資料を配布する。						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
痛みに関連する解剖生理学、薬理学の知識が十分ある。 疼痛のある患者のアセスメントや疼痛治療や緩和ケアの立案ができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・		
<b>評価基準・評価基準</b>						

履修判定指標：

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDB0301			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB03				研究教育力	○
授業科目名	ストレスコーピング特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子 中島紀子					
<b>授業の目的</b>						
<p>ストレス社会と言われる現在において、現在労働者の6割がストレスを感じており、メンタルヘルスの重要性が指摘されている。メンタルヘルスの対応として、セルフケアに加えてラインケアの重要性が示されているところである。本研究は、ストレス、及びストレスコーピング理論、ストレスコーピングの二つの戦略について学修し、問題解決力やレジリエンスを高めるためのセルフケアとラインケアの両側面から看護の対象者のメンタルヘルスを検討することを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目はオムニバス方式/全15回であり、前半の8回（担当者：別宮）では、ストレスやストレス反応、心理学的ストレスモデルとストレスコーピング理論、二つのストレスコーピングについて学修し、その後発展を続ける多数のストレスコーピングに関連した心理尺度について先行文献を用い探究する。また、ストレスコーピングとセルフケア・セルフマネジメントについて、レジリエンスがもたらすコーピングへの影響と、レジリエンスへの影響因子とその強化にむけたセルフケアについて造詣を深める。</p> <p>後半の7回（担当者：中島）では、看護専門職におけるストレス要因やコーピング特性、ワークエンゲージメント、レジリエンスについて概説し、文献を用いてこれらの関連性について検討する。また、職場における連携や関係構築の必要性をセルフケアやラインケアの両側面から検討することで、ワークエンゲージメントの維持・向上に向けた社会的支援の必要性について探求する。</p> <p>（オフィスアワー：別宮：水曜日12:00-13:30 中島：木曜日12:00-13:30）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	ストレスコーピングとは（別宮）	ストレスからストレスコーピングを概説し、また、授業スケジュールの調整および担当箇所を決定する。	ストレスやストレスコーピングの知識を再確認し、理解を深める。	ストレスの心理学、ストレスとストレスコーピング		
2	ストレスコーピングに関する研究傾向（別宮）	ストレスコーピングに関する研究の動向を調べ、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングに関する研究の動向について、文献調査を行う。	関連文献		
3						
4	ストレスコーピングの類型について（別宮）	各研究者のストレスコーピングの類型を比較検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	各研究者のストレスコーピングの類型を文献調査し、比較する。	関連文献		
5						
6	ストレスコーピングに関連した心理尺度（別宮）	ストレスコーピングの心理尺度を調べ、その尺度の信頼性・妥当性について検討を行い、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングの心理尺度について、尺度の信頼性・妥当性について事前に文献調査を行う。	SCI、CISS、関連文献		
7	ストレスコーピングとセルフケア・セルフマネジメント（別宮）	ストレスコーピングとセルフケアやセルフマネジメントの関連を検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングとセルフケアやセルフマネジメントの関連について文献調査を行う。	関連文献		
8	ストレスコーピングとレジリエンス（別宮）	ストレスコーピングとレジリエンスの関連を検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングとレジリエンスの関連について文献調査を行う。	関連文献		
9	看護専門職におけるストレスコーピング（中島）	看護専門職におけるストレスコーピングに関する動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	看護専門職におけるストレスコーピングに関する研究の同行について事前に文献調査を行う。	関連文献		

10	ワークエンゲージメントとは (中島)	ワークエンゲージメントを概説し、関連する研究の動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	ワークエンゲージメントについて事前に文献調査を行う。	関連文献
11				
12	ラインケアとは (中島)	セルフケアとラインケアに関する研究の動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	ラインケアについて事前に文献調査を行う。	関連文献
13				
14	ワークエンゲージメントの必要性と社会的支援 (中島)	職場における連携や関係構築の必要性をセルフケアやラインケアの両側面から検討し、ディスカッションを行う。	セルフケアやラインケアの両側面からワークエンゲージメント向上に向けた取組みについて整理する。	関連文献
15				
16	試験			

#### 教科書・参考文献など

1～8 回参考図書：①ストレスの心理学 [認知的評価と対処の研究]、リチャード・S・ラザルス、スーザン・フォルクマン著、本明寛他監修、(1994) 実務教育出版、②ストレスとストレスコーピング ラザルス理論への招待、富田正利、山本和郎編集協力、(2018) 星和書店

9～15 回参考図書：①ワークエンゲージメントー基本理論と研究のためのハンドブック アーノルド・B. バッカー (著)、(2014) 星和書店 ②ケアをすることの意味 病む人とともに在ることの心理学と医療人類学 アーサー・クライマン (著)、(2015) 誠信書房 ③働き方改革時代の「ラインケア」下村洋一 (著)、(2017) フィスメック

#### 最終到達目標

#### 評価方法

ストレスサー、及びストレスコーピング理論、ストレスコーピングの二つの戦略について学修し、問題解決力やレジリエンスを高めるためのセルフケアとラインケアの両側面から看護の対象者のメンタルヘルスを検討することができる。

課題達成度を以下の方法で評価する  
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)

#### 履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDB0401			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB04				研究教育力	○
授業科目名	世代継承性看護特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	河野保子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、人間に備わっている世代継承性 (Generativity) の概念を理解し、看護ケアの方向性について探求する科目である。特に、高齢者の世代継承性は、人としての尊厳にかかわるスピリチュアルな側面を持ち、ストレングスモデルとしての意味においても重要な概念である。世代継承性を活用した看護の在り方を実装するための知識と、活用する意義を探究し、ケアプログラム構築に向けた看護学研究、高齢者研究への展開について論述する。また、各種理論と関連させながら世代継承性の概念について学修・追究する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>世代継承性 (Generativity) の概念とその変遷について詳説する。また世代継承性 に関連する理論家と理論の特徴を詳述するとともに、世代継承性研究の流れ、及び世代継承性と Spirituality の関連性、及び世代継承性に関連する各種心理社会的要因について国内外の研究結果から論述する。また、高齢者にとっての世代継承性の意味、及び医学、及び看護学、医学看護学教育、福祉学への高齢者の世代継承性の活用について、自らの世代継承性研究を踏まえ、今後の看護学への展開について論じる。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション	本研究の進め方 世代継承性の概念、高齢者看護に必要な理由	世代継承性に関連する先行研究を一編読んでおく。 再度読みなおし、世代継承性の意味を理解する。	必要資料は配布 参考図書は下記に記載		
2						
3	生涯発達 - エリクソンの理論 -	エリクソンの老年期の発達課題 抄読・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。 意見交換と省察により、老年期について考察しておく。	参考文献：⑥		
4						
5	老年的超越 - ラーシュ・トーンスタム -	老年的超越性とは 抄読・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。 意見交換と省察により、老年期について考察しておく。	参考文献：④		
6						
7	世代性と成熟 - 丸島 -	世代継承性と成熟とは 抄読・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察しておく。	参考文献：①		
8						
9	人生の意味と世代継承性	世代継承性の意味とは 発表・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察しておく。	参考文献：②⑤		
10						
11	ケアと世代継承性	世代継承性研究の価値とは 発表・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察しておく。	参考文献：③⑧		
12						
13	看護と世代継承性	看護における世代継承性の意味 発表・ディスカッション	参考文献から、関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察する。	参考文献：③⑧		
14						

15	教育・研究と世代継承性	教育の場、研究の場における発展発表・ディスカッション	参考文献を読み、関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性と看護について考察する。	持ち寄った文献
16	試験			
<b>教科書・参考文献など</b>				
<p>参考図書：</p> <p>①丸島令子：成人の心理学 世代性と人格的成熟，ナカニシヤ出版，2009. 2,800円+税</p> <p>②佐藤眞一編：心理老年学と臨床死生学，ミネルヴァ書房，2022. 4,200円+税</p> <p>③やまだようこ：世代を結ぶ，新曜社，2012. 3,200円+税</p> <p>④ラーシュ・トーンスタム：老年的超越性 年を重ねる幸福感の世界，晃洋書房，2017. 2,800円+税</p> <p>⑤岡本裕子編：プロフェッションの生成と世代継承，ナカニシヤ出版，2014. 3,200円+税</p> <p>⑥E. H. エリクソン他著，村瀬孝雄他訳：ライフサイクル、その完結 増補版，みすず書房，2001. 2,800円+税</p> <p>⑦藤崎宏子他：ミドル期の危機と発達，金子書房，2008. 3,200円</p> <p>⑧やまだようこ編：人生を物語る，ミネルヴァ書房，2000. 3,000円+税</p> <p>参考文献：</p> <p>⑨中川威他：超高齢者の語りにもみる生(life)の意味，老年社会学，32(4)，422-433、2011.</p> <p>⑩後期高齢者の successful Aging の意味 郡部に居住する高齢者の聞き取り調査から，日本看護研究学会雑誌，27(5)，25-30，2004.</p>				
<b>最終到達目標</b>			<b>評価方法</b>	
(1) 世代継承性 (Generativity) の概念について論じられる。(2) 世代継承性 (Generativity) に関連する理論家とその理論の特徴、及びその関連性について説明できる。(3) 高齢者にとっての世代継承性 (Generativity) 理論の発展性について考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(40%)・課題レポート(30%)・プレゼンテーション(30%)	
<b>履修判定基準・評価基準</b>				
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )</p>				

授業コード	EDB0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB05				研究教育力	○
授業科目名	実践・改革的地域包括ケアシステム論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	宮崎博子 赤松公子 中島紀子 羽藤典子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の状況において、各世代（小児・成人・高齢者・障がい者等が、従来の医療の現場だけのケア・医療の完結ではなく、地域で生活するために病院から地域・在宅への社会的、改革的な地域包括ケアシステムの構築を探究することを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>現在の社会的課題であるケアの社会化をみざす意義、地域でケアすることの課題、及び地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開を学修し、住まい・医療・介護・生活支援、介護予防の視点で、社会保障・社会福祉、他職種連携、継続看護の、ICTの活用を含めた実践的検証をみざす。</p> <p>担当教員、宮崎は、保健所保健師としての長年の業務経験を有する。そこで、あらゆる世代の保健と医療と福祉を一体化したシステムづくりについて論述する。地域看護管理の視点から地域の課題抽出と課題解決のための将来に向けての地域包括ケアシステムの発展と、そのために必要な社会資源の創出とシステムの構築について論じる。</p> <p>担当教員、羽藤は、総合病院小児科病棟での実践経験を有する。そこで、子どもと子育て世代を対象とした地域包括ケアの現状と課題を分析する。妊娠期から出産・子育て期に渡る切れ目ない支援を目指すための看護専門職の役割や連携における研究の動向を考察する。必要な医療・福祉・行政・地域を含めた幅広い専門職の連携・協働による地域包括ケアシステムの構築について議論を深める。</p> <p>担当教員、中島は、看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する現象に焦点をあて、健康問題を生理学的行動学的側面から検討し、複雑な健康問題に対する多角的視点を培い、問題解決に向けた理論的思考とエビデンス構築のプロセスを検証する。</p> <p>担当教員、赤松は、地域包括システムにおける現状と課題を分析し、地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開について検証する。</p> <p>（オフィスアワー：宮崎博子 月曜日 12：20-13:00）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	システムづくり（宮崎）	全ての世代における保健医療福祉のシステムづくり 講義と討議を行う。	関連する文献や先駆的な実践事例を複数調べておくこと。発表できるように資料化しておくこと。 授業後は、レポートを課す。	適時、提示する。		
2	課題抽出、課題解決、地域包括ケアシステム（宮崎）	地域の課題抽出と課題解決に向けての地域包括ケアシステムの発展 講義と討議を行う。	関連する文献や先駆的な実践事例を複数調べておくこと。発表できるように資料化しておくこと。 授業後は、レポートを課す。	適時、提示する。		
3	社会資源の創出（宮崎）	地域包括ケアシステム発展のために必要な社会資源の創出とシステムの構築 講義と討議を行う。	関連する文献や先駆的な実践事例を複数調べておくこと。発表できるように資料化しておくこと。 授業後は、レポートを課す。	適時、提示する。		
4	子ども・子育て支援新制度体系Ⅰ（羽藤）	地域子ども・子育て支援事業の概要およびさまざまな取り組みの具体策について発表し、ディスカッションを行う。	事前：子ども・子育て支援制度のしくみ・取り組み等について文献等で調べ、資料を作成し、発表できる形にしておく。事後：討議内容を復習しレポートを提出する。	内閣府 HP 子ども・子育て支援新制度		
5						
6	地域包括ケアシステムの探究	特に支援を必要とする子どもと家族に対する地域での子育て支援に	関連する文献やこれまでの事例を調べて資料にまとめ、発表できるように	適宜提示する。 子育て世代包括		

7	(羽藤)	関する課題と課題の解決に向けた地域包括ケアシステムに必要な多職種連携・協働とはどのようなものか討議を行う。	資料化しておく。(被虐待児など)事後:講義後は、討議内容を踏まえレポートを作成・提出する。	支援センター業務ガイドライン
8	オーラルフレイルとは(中島)	オーラルフレイルの概念とその背景、フレイルとの関連についてヒスカッションを行う。	事前:オーラルフレイルの概念とその背景について文献検索しまとめる 事後:討議内容をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
9	オーラルフレイルに対する地域での取り組み(中島)	地域におけるオーラルフレイルへの取り組みと課題についてディスカッションを行う。	事前:地域における具体的な取り組みを調べる 事後:地域の取り組みと課題をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
10	認知症と口腔の健康(中島)	高齢者における口腔機能維持の必要性と課題についてディスカッションを行う。	事前:認知症と口腔ケアに関連する文献検索とまとめ 事後:討議内容をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
11	口腔健康管理の在り方と多職種連携(中島)	他職種連携の視点から口腔健康管理についてディスカッションを行い課題解決策を検討する。	事前:多職種連携の視点から見た口腔健康管理に関する文献検索 事後:討議内容をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
12	地域包括ケアシステムの現状と課題(赤松)	地域包括システムにおける現状と課題に関する文献クリティークを行う。	議論したい内容について説明できるように準備する。	適宜、文献や資料を提示する。
13				
14	地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開(赤松)	地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開について検証する。	議論したい内容について説明できるように準備する。	適宜、文献や資料を提示する。
15				
	試験			
教科書・参考文献など				
適時、提示する。また、プリントを配布する。				
最終到達目標			評価方法	
①地域で生活するための地域包括ケアシステムの構築について、探究できる。 ②ケアの社会化の意義が分かる。 ③地域ケアの課題が分かる。 ④地域での生活支援、介護予防の視点で、社会保障・社会福祉、他職種連携、継続看護の実践的検証ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点):到達目標を達成している(Very Good) B(79~70点):到達目標を達成しているが、不十分な点がある(Good) C(69~60点):到達目標の最低限は満たしている(Pass) D(60点未満):到達目標の最低限を満たしていない(Failure) (E:試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F:出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC01				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	河野保子 中島紀子					
<b>授業の目的</b>						
看護実践に関する基本的な概念や理論を学修し、看護の対象者にとって看護実践が科学的根拠を持つものであり、かつ健康回復においてより良い変化をもたらすものであることを認識し、看護実践の質向上のためのケア方法を探究することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
<p>人間の活動性をADLやIADLと自己効力感、及びQOL（生活の質）の観点から教授研究する。ADLやIADLの概念、自己効力感の概念分析、QOLの臨床実践的意義について論究し、その人らしさの生き方について考察するとともに、生活支援学の理論的基礎について研究する。また臨床現場における看護職者のアサーティブ行動や人権意識は、患者の擁護者（アドボケイト）として重要な役割をもつことを認識し、ケアの質向上のためのケア方法を検証する。</p> <p>看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する現象、あるいは日常業務における看護提供体体制やキャリア開発に関する研究の動向を国内外の文献を通して文献検索し、最新の知見を得る。さらに看護実践に関する科学的根拠に基づいたケア方法の探究のため、先行研究、および自研究手法などについて詳述する。自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想に活用する。</p> <p>（オフィスアワー）河野；火曜日 13:20-14:50 中島；木曜日 16:20-18:00</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1～3	生活支援学としての看護（河野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアの本質</li> <li>・実践の科学としての看護学</li> <li>・看護学探究の方向性、方法、プロセス</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		【事前】参考図書；ケアの本質を読んでおく。【事後】ケアの本質の中で新たな発見について再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミルトンメイヤロフ、田村真、向野宣之訳：ケアの本質-生きることの意味、ゆみる出版、1996</li> <li>・オリジナル資料配布</li> </ul>	
4	日常生活における活動のアセスメント；ADL、IADL（河野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADLの概念</li> <li>・IADLの概念</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		【事前】ADLの概念及びIADLの概念について調べ、レジュメを作成し、講義時に発表する。【事後】看護研究におけるADL、IADLの意義について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土屋弘吉他編集：日常生活活動（動作）—評価と訓練の実際—、医歯薬出版株式会社、1996</li> <li>・五島雄一郎他監修：老人診療マニュアル、日本医師会雑誌、生涯教育シリーズ26</li> </ul>	
5	自己効力感の概念分析（河野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己効力感とは</li> <li>・効力予期と結果予期との関係</li> <li>・効力予期の主要な情報源</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		【事前】自己効力感の概念、効力予期と結果予期、及び効力予期の情報源について調べ、レジュメを作成し、講義時に発表する。【事後】看護研究における自己効力感の使われ方について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梶田叡一著：自己意識心理学への招待—人とその理論—、有斐閣ブックス、1994</li> <li>・アルバートバンデューラ著、</li> </ul>	

				本明寛、野口京子監訳：激動社会の中の自己効力、金子書房、1997 ・坂野雄二・前田基成編著：セルフエフィカシーの臨床心理学
6	ネガティブケイパビリティの考え方① (河野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネガティブケイパビリティとは</li> <li>・ネガティブケイパビリティとジョン・キーツ</li> <li>・ネガティブケイパビリティと医療</li> <li>・教育とネガティブケイパビリティ</li> <li>・共感に寄り添うネガティブケイパビリティ</li> <li>・ディスカッション・</li> </ul>	【事前】ネガティブケイパビリティについて著書を熟読し、レジюмеを作成する。講義時に発表してディスカッションをする。【事後】自身の研究課題としてどのように用いることができるか検討する。	・帚木蓬生著：ネガティブケイパビリティー「答えの出ない事態に耐える力」、朝日選書 958、2022
7~8	ネガティブケイパビリティの考え方② (河野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネガティブケイパビリティに関する文献を講読し、自身の研究課題との関連性についてディスカッションする。</li> </ul>	【事前】ネガティブケイパビリティに関する文献を調べ、一覧表にしておく。その内容を講義で発表する。【事後】自身の研究課題にどのようなリサーチクエストとして設定できるか検討する。	・松永信夫著：ネガティブケイパビリティー「答えの出ない事態に耐える力」を読む、保健医療経営大学紀要、N09、90-96、2019
9	日常生活行動と健康 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護における健康の概念</li> <li>・国内外の健康に関連する実態</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】看護における健康を熟読し、レジюмеを作成する。 【事後】国内外の健康に関する実態を整理する	適宜、文献や資料を配布する
10	感染症サーベイランス (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症サーベイランスに関連する学修と活用状況と課題</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】感染症サーベイランスについて調べ整理する。 【事後】感染症サーベイランスの現状と課題についてまとめる。	適宜、文献や資料を配布する
11	看護実践とスキル (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術(スキル)；アセスメントスキル、コミュニケーションスキル、テクニカルスキル</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】看護技術(スキル)について調べ整理する。 【事後】自身の研究課題に用いることができるか検討する。	適宜、文献や資料を配布する
12	看護実践能力とクリティカルシンキング (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護基礎教育における看護実践能力修得の現状と課題</li> <li>・クリティカルシンキングと看護実践</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】厚生労働省が位置づけた看護実践能力を調べる 【事後】看護実践能力とクリティカルシンキングについてまとめ、研究に活用できるか検討する。	適宜、文献や資料を配布する
13	看護師とアサーティブ行動 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーティブとは</li> <li>・看護場面におけるアサーティブコミュニケーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】アサーティブについて調べ整理する。 【事後】看護実践および研究に活用できるか検討する。	適宜文献や資料を配布する
14	看護提供体制と看護方式 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護提供体制と看護方式に関連する研究動向と課題の明確化</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】看護提供体制と看護方式に関連する文献を調べる 【事後】課題解決についてまとめる	適宜、文献や資料を配布する
15	キャリア開発 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続教育の現状と課題、キャリア開発に関連する研究動向</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】継続看護、キャリア開発に関連する文献検索 【事後】キャリア開発に関連する文献の整理	適宜、文献や資料を配布する
16	試験			

教科書・参考文献など	
河野：必要に応じて資料を配布する 中島：適宜必要な資料を配布する	
最終到達目標	評価方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活支援学の理論的基礎を説明できる</li> <li>2. 人間の活動性、自己効力、ケイパビリティについて説明できる</li> <li>3. 健康の概念、感染症サーベイランスの実態、看護技術(スキル)、クリティカルシンキング、アサーティブコミュニケーション、看護提供方式と看護体制、キャリア開発について説明できる。</li> </ol>	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC02				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	河野保子, 中島紀子					
<b>授業の目的</b>						
看護実践開発特論ID(基礎看護学)を踏まえ、自身の研究課題を明確化するために、臨床研究や看護研究から得ることのできる最新・最善の研究論文を講読するとともに、自身の研究の基盤となる概念枠組み(理論モデル)を創造・検討するために各種文献や理論・概念を考究し、研究に関する具体的アプローチ方法を追究する。						
<b>授業の概要</b>						
(河野) 指導教員の研究成果物(研究論文等)について講読するとともに、看護実践を科学することについて検討・分析を行う。						
(中島) 看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する臨床における現象や、日常看護活動における看護提供体制やキャリア開発に関する研究の動向を、国内外の文献を通して文献検索をし、最新の知見を得る。また日常生活援助技術に関する実験的研究と看護技術に活用できる看護モデルの構築に関する文献から、技術開発における研究的視点および研究方法について探求する。さらに、自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想を行う。						
(オフィスアワー) 河野; 火曜日 13:20-14:50 中島; 木曜日 16:30-18:00						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	看護の実践現場(教育・管理・実践)から見た看護実践—看護研究—看護の理論化の問題・課題(河野)	・学生が所属する専門領域の現状と課題の分析 ・研究ニーズの分析とケアプログラムの検討・改善方法 ・ディスカッション		【事前】自身の所属する看護の実践現場について研究的素材を考えておく。【事後】自身の研究課題を再確認し、研究可能かどうか等を検討しておく。	必要時資料配布	
2	同上	同上		同上	同上	
3	同上	同上		同上	同上	
4	研究論文(1)を教材とした研究成果のクリティーク①研究目的、研究方法、倫理的課題(河野)	論文輪読(1) 河野保子: 医療における患者の人權—尊厳死と自己決定権—、愛媛大学法学部法学研究科修士論文、1996		【事前】研究論文を読み、研究目的、研究方法、倫理的課題についてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時資料配布	
5	研究論文(1); ②研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリー(河野)	同上		【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	同上	
6	研究論文(2)を教材とした研究成果のクリティーク①研究目的、研究方法、倫理的課題(河野)	論文輪読(2) 魚尾淳子、河野保子著: 脳血管障害患者の日常生活活動拡大に関する研究—意欲、自己効力感、自己効力感形成の情報源との関係に焦点をあてて—、日本看護研究学会雑誌、34(1)、47-59、2011		【事前】研究論文を読み、研究目的、研究方法、倫理的課題についてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時配布	
7	研究論文(2);	同上		【事前】研究論文を読み、研究結	同上	

	②研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリー(河野)		果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	
8	研究論文(3)を教材とした研究成果のクリティーク①研究目的、研究方法、倫理的課題(河野)	論文輪読(3) 淳限界集落に居住する高齢者の生活満足度に影響を及ぼす身体・社会・心理的要因の検討—共分散構造分析による因果モデルの構築—、高齢者のケアと行動科学、VOL. 27、21-37、2022	【事前】研究論文を読み、研究目的、研究方法、倫理的課題についてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時配布
9	研究論文(3) ②研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリー(河野)	同上	【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	同上
10	総括(河野)	学生各自の研究課題の一端を発表し、リサーチクエスチョンの検討、研究的アプローチの方法、ケアプログラムの開発やそのアウトカム評価方法等についてディスカッションする。	【事前】自身の研究課題に関して研究的アプローチをイメージ化する。【事後】自身の研究課題に関する概念モデルを考える。	
11 ~ 14	自己の課題に合わせた研究の動向(中島)	先行研究を選定し、自己の研究課題を踏まえた課題と対策を考察する。 プレゼンテーション、ディスカッション	文献検索、プレゼンテーション準備	適宜提示
15 ~ 18	学会への参加(自己の研究課題に関する研究者間での意見交換)(中島)	研究課題に関連する学会に参加し、情報収集を行うとともに、自己の研究課題に関連する研究者との意見交換を行う。	学会抄録集を事前に読み、自己の研究課題に類似した研究者との意見交換ができるよう準備する。 学会参加後は、自己の研究課題の再考を行う。	適宜提示
19 ~ 20	自己の研究課題の発展(中島)	自己の研究課題解決に向けた方策の検討	自己の研究課題の解決に向けた方策を検討する。 意見交換で得られた情報を整理し、今後の研究に活かす。	適宜提示
21 ~ 24	学会への参加(自己の研究課題に関する研究者間での意見交換)(河野)	学術集会への参加 看護学領域における多様な知見の収集 ディスカッション	【事前】参加する学術学会の抄録集を読んでおく。自身の研究に関連する課題、および興味のあるテーマ等について予備知識を持つ。 【事後】自身の研究課題について再考する。	学会抄録集
25 ~ 26	学生自身の修士学位論文のクリティーク(河野)	修士学位論文で得た知識に関して再考する ディスカッション	【事前】修士学位論文を再読し、知見の発展的研究手法がどのようなものであるか考察する。 【事後】修士学位論文の知見を基盤にして、博士学位論文の課題、および研究方法等に関連するアイデアを検討する。	自身の修士学位論文
27 ~	学生自身の博士学位論文の課題	学生自身がイメージしている研究課題について、自由な意見交換を行	【事前】自身の課題について先行研究を読んでおく。	文献提示

28	とリサーチクエ スション (河野)	う その課題は研究課題として意識の あるものか、実践可能か等について ディスカッションする。	【事後】ディスカッションから得ら れた研究構想を記述しておく。	
29 ～ 30	博士学位論文作 成の研究ストラ テジー (河野)	研究課題の確認のために関連する 原著論文を講読する ディスカッション	【事前】特論、特別演習、特別研究 へと知識を関連させ、博士学位論文 の課題を抽出する。 【事後】研究課題の追求と、研究手 法を記述しておく。	文献提示
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生自身は、自身の研究課題に対する研究の進め方が理解できる。</li> <li>・ 自身の研究課題に対するリサーチクエスションを明らかにすることができる。</li> <li>・ 自身の研究課題に対する理論モデルを創造することができる。</li> <li>・ 自己の研究課題と課題解決に向けた対策について考察できる。</li> </ul>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
<p>評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )</p>				

授業コード	EDC0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC03				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 開発特論D	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、リプロダクティブヘルス・ライツに関する理論を基盤とし、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にし、看護実践に基づきサーチ・クエスチョンから独自の概念枠組みを構築するための準備として各看護理論を学修することを目的とする。概念モデルの作成等理論構築をするための研究手法の前提とし、EBP、システムティックレビュー、研究方法論を探究することを目的とする。</p>						
<p>周産期の健康・倫理的課題に関する概念分析をおこなう。周産期看護学領域における国内外の研究論文を、EBP、システムティックレビュー、研究方法論を通して看護実践を開発する。また、リプロダクティブヘルス・ライツについてグローバルな視点で、女性とパートナー、家族を含む生涯発達理論を基盤とし、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にする。また、ヘルスプロモーションに関連する各理論を検証する。そのうえで、講義内容に関するテーマについてEBP、システムティックレビュー、研究方法を文献に基づいた各自の学修を発表し、ディスカッションを通して、さらに多角的な視点で課題を追究する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。リプロダクティブヘルス/ライツの基本理念と歴史の変遷	リプロダクティブヘルス/ライツのとの基本理念と歴史の変遷知識についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルス/ライツについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学 リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス		
2	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	ジェンダー・家族についての社会的課題（LGBTQを含む）	ジェンダー・家族についての社会的課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	岩間暁子他 問からはじめる社会学、		
4	課題の探求①	①-③の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。			
5	健康行動理論	健康行動理論について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
6	研究と理論：移行期理論	移行期理論について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—		

7	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて講義とグループディスカッション実施。	ヘルスプロモーションに関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、
8	課題の探求②	⑤-⑦の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
9	愛着形成理論①	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(1)
10	愛着形成理論②	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(2)
11	愛着形成理論③	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(3)
12	課題の探求③	⑨-⑪の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
13	プレコンセプションケアに関連するガイドライン	プレコンセプションケアに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	妊娠高血圧症候群ガイドライン2021
14	プレコンセプションケアに関連する理論	プレコンセプションケアの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	プレコンセプションケアの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	国立成育医療研究センター 新産科実践ガイド、家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア
15	課題の探求④	⑬-⑭の授業に関する課題に関連した各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	

教科書・参考文献など

参考文献

\* 女性生涯看護学 吉沢豊予子 真興交易(株)医学出版部(2004)、\* 問からはじめる社会学、岩間暁子他、有斐閣(2015)、\* リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス、信山社、谷口真由美(2007)、\* 移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研(2019)、\* ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店(2022)、\* 家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア、中野 綾美ら、メディカ出版(2020)、\* Meleis, A. I. (2010). Transitions Theory: Middle-range and situation-specific theories in nursing research and practice. New York: Springer Publishing Company. \* Bowlby, J. (1969). Attachment and Loss: Vol. 1, Attachment (Vol. 1). New York: Basic Books. (黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子訳, 母子関係の理論(1) 愛着行動, 岩崎学術出版社, 1976) \* Bowlby, J. (1973). Attachment and Loss: Vol. 2, Separation. New York: Basic Books. (黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子訳, 母子関係の理論(2) 分離不安, 岩崎学術出版社, 1977) \* Bowlby, J. (1980). Attachment and Loss: Vol. 3, Sadness and Depression. New York: Basic Books. (黒田実郎, 吉田恒子, 横浜恵三子訳, 母子関係の理論(3) 対象喪失, 岩崎学術出版社, 1981) \* Rubin, R. (1984). Maternal Identity and the Maternal Experience. New York: Springer. (新道幸恵, 後藤桂子訳, 母性論: 母性の主観的体験, 医学書院, 1997) \* 国立成育医療研究センター 新産科実践ガイド、診断と治療社、左合 治彦(2021)

最終到達目標	評価方法
<p>1. リプロダクティブヘルスとの基本理念と歴史的変遷とグローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスの課題を取り上げ、その内容についてプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>2. 妊婦とその家族が不安なく快適で健康な妊娠生活を送り、親となる準備や新しい家族を迎える準備が整うよう支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>3. 健康行動理論、移行期理論、ヘルスプロモーション、愛着形成理論、に関する文献をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>4. ブレコンセプションケアや現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について取り上げ、その内容及び、課題解決のための文献についてプレゼンテーションし、説明できる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EDC0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC04				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 開発特別演習D	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、現代家族を視野に入れ、母子や家族の健康問題の解決に向けて、実践的なリプロダクティブヘルスケアの構築につながる研究成果から、リプロダクティブヘルス/ライツ、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にし、看護実践開発研究における課題探求や研究計画に基づき、関心がある、研究テーマに関してフィールドワークなど調査方法を探求することを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>演習の内容については、(周産期の健康課題について、EBP、システマティック・レビュー、国内外の研究の知見を交え、研究テーマを明確化し、適切な研究方法を用い、フィールドワーク等の調査方法を検証する。さらに、リプロダクティブヘルス・ライツを基盤とし、女性とパートナーのライフサイクル各期の健康課題について、ヘルスプロモーションに関連するアプローチについてフィールドワークを実施し、検証をする。そのうえで、講義内容に関するテーマについてEBP、システマティック・レビュー、研究方法を文献に基づいた各自の学修を発表し、ディスカッションを通して、さらに多角的な視点で課題を追究し、自己のフィールドワークなど調査方法を検討する。</p> <p>オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。 研究と理論①	演習の進め方についてオリエンテーションを行う。 各自が論文作成の際に採用する理論についてグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
2-4	研究と理論②： 理論と研究と実践	健康行動理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論の研究と実践に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
5-8	論文クリティークの方法	クリティークとは何かについて概説する。	事前に該当図書を熟読する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
9	論文クリティークの方法と実際①	質的研究における文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
10-12	論文クリティークの方法と実際②	尺度開発研究における文献クリティークに関する講義をする。第8回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
13-15	論文クリティークの方法と実際③	システマティックレビューにおける文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自のシステマティックレビュー論文を検索してクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		

16、 17	ウイメンズヘル ス・マタニティ ヘルス・リプロ ダクティブヘル ス・ライツに関 連する論文のク リティーク	各自の研究テーマに関連する論文 のクリティークした結果について プレゼンテーションを実施する。	各自の研究テーマに関連する論文 のクリティークした結果をプレゼ ンテーションできる準備をして臨 む。	
18、 19	研究方法：量的 研究（尺度開 発）	尺度開発について講義とループデ スカッション実施。	尺度開発に関する文献を熟読す る。その内容についてグループデ ィスカッションに臨める準備をす る。事後は関心あるテーマにつ いて尺度開発の研究方法を用いて いる原著論文を検索し熟読して おく。	質問紙調査と心 理測定尺度計画 から実施・解析 まで
20、 21	研究方法：アク ションリサーチ	アクションリサーチについて講義 とループデスカッション実施。	アクションリサーチに関する文献 を熟読する。その内容についてグ ループディスカッションに臨める 準備をする。事後は関心あるテ ーマについてアクションリサーチの 研究方法を用いている論文を検索 しておく。	アクションリサ ーチ - 看護研究 の新たなステー ジへ
22	課題の探求	⑨-⑲の授業に関する課題に関連 した各自の興味あるテーマのレジ メを使用してプレゼンテーション しその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマで プレゼンテーションを実施し、その 後ディスカッションを行える準備 をして臨む。	
23	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）①	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。研究課題の設定と文献検索の 結果を発表し、ディスカッション する。	事前に研究課題の設定と文献検索 しプレゼンテーションの準備をす る。事後はさらに検索結果をまと める。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基 づく看護実践のた めのシステムティ ックレビュー
24、 25	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）②	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の結果の整理したものを発表 し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果を整理しプレゼンテーショ ンの準備をする。事後はさらに献 検とスクリーニングの結果を整 理する。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基 づく看護実践のた めのシステムティ ックレビュー
26	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）③	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の結果の整理し統合したものを 発表し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果を整理し統合したもののプ レゼンテーションの準備をする。 事後は授業で検討された内容を追 加修正する。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基 づく看護実践のた めのシステムティ ックレビュー
27、 28	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）④	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の結果の整理しさらに出版バイ アスの評価を実施する。さらに、 サブグループ解析と感度分析が必 要な時には実施する。それらを発 表し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果の整理しさらに出版バイ アスの評価を実施する。さらに、 サブグループ解析と感度分析が必 要な時には実施し発表の準備をす る。事後は授業で検討された内容 を追加修正する。	看護研究のため の文献レビュー— マトリックス 方式、エビデ ンスに基づく看護 実践のためのシ ステムティック レビュー

29、 30	研究テーマに沿ったシステムティックレビュー（メタアナリシス）の結果のまとめ	各自の研究テーマに関連する論文研究テーマに沿ったシステムティックレビュー（メタアナリシス）のクリティークした結果をまとめ、それらを発表し、ディスカッションする。	各自の研究テーマに関連するシステムティックレビューをまとめ、プレゼンテーションの準備をして臨む。事後は授業で検討された内容を追加修正する。	
<b>教科書・参考文献など</b>				
<b>参考文献</b> *健康行動理論による研究と実践、日本健康教育学会、医学書院（2019）、*ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店（2022）、*ヘルスプロモーション 健康科学 和田雅史ら、聖学院大学出版（2016）、*移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研（2019）*質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望、プランニー・リアムブットーン 著、メディカル・サイエンス・インターナショナル（2022）*質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで、宇井美代子ら著、サイエンス社（2014）*アクションリサーチ入門 - 看護研究の新たなステージへ、筒井真優美ら著、ライフサポート社、（2010）*よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 牧本清子ら編著、日本看護協会（2020）、*看護研究のための文献レビュー—マトリックス方式、ジュディス ガラード著、医学書院（2012）、*初めの一步 メタアナリシス—“Review Manager”ガイド、平林由広、克誠堂出版（2014）、*エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー、牧本清子（2013）				
<b>最終到達目標</b>			<b>評価方法</b>	
1. 研究論文のテーマに関連する理論や概念について文献を用いてプレゼンテーションし、説明することができる。 2. 論文をクリティークすることで文献検討を通して、未だ解決されていない看護現象を自己の研究課題として明確化できる。さらに自己の課題にアプローチするための方法論を吟味し、妥当性、信頼性、実現可能性を検討する。 3. 各自の興味あるテーマについて文献のシステムティックレビューをして、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、その内容についてプレゼンテーションし、ディスカッションすることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験（60%）・課題レポート（20%）・プレゼンテーション（20%）	
<b>履修判定指標・評価基準</b>				
<b>履修判定指標：</b> <b>評価基準：</b> 評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC05				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	三並 めぐる 羽藤 典子					
授業の目的						
<p>本科目は、保健・医療・福祉・教育分野で生起する看護現象に対して、小児看護学の学問的發展に貢献できる研究者として研究の「問い」を原点に、小児看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究課題に取り組む科目である。各分野の教員自身の研究内容と方法、臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修することを目的とする。最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後ディスカッションをとおして行い学びを深める。</p>						
授業の概要						
<p>日本と世界の小児医療事情と小児看護の現状について、また、小児看護に必要な看護理論活用について探求する。主として、愛着理論（ボウルビイ）、認知発達理論（ピアジェ）、ライフコース理論（グレン H. エルダー）、生涯発達理論（ユング、エリクソン、レビンソン、スーパー）、キャリア発達理論（パーソンズ、ホランド、キンズバーグ、シャイン、など）、及び家族看護理論（構造・機能的アプローチ、家族発達理論、家族システム理論など）の活用について論述するとともに、臨床ケースと往還させて知識を深める。</p> <p>判別分析による若年女性の冷え症を識別する指標の解明と、学童期、思春期女性の冷え性と小児の在宅医療の体制整備に関する研究について論述し、在宅療養児者と家族のためのレスパイトケアの実態と課題と、医療的ケアが必要な子どもと家族への包括的な支援（ケア・コーディネーション）、小児と家族のアセスメントとセルフケアについて先駆的取組みについて探究する。さらに、小児救急医療体制と小児救急看護の現状、小児と家族の養育環境、育児不安・育児困難の現状と背景、子育て支援の現状と家族への支援についても詳述する。さらに小児と家族への多職種連携の現状と課題、及び、児童虐待の防止と早期対策について多角的視点で追究する。家族の養育環境と子どものレジリエンスについて最新の研究を含めて探究する。</p> <p>（オフィスアワー：三並：火曜日 16：40-17：50 羽藤：月曜日 17：00～18：00）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション 日本と世界の小児医療事情	日本と世界の小児医療事情についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
2	日本と世界の小児看護の現状 ①②(三並)	日本と世界の小児看護の現状についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
3	愛着理論、認知発達理論(三並)	愛着理論（ボウルビイ）、認知発達理論（ピアジェ）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学愛着障害は何歳からでも必ず修復できる。 学生が書籍や文献等で資料作成		
4	ライフコース理論(三並)	ライフコース理論（グレン H. エルダー）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
5	生涯発達理論(三並)	生涯発達理論（ユング、エリクソン、レビンソン、スーパー）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
6	キャリア発達理論(三並)	キャリア発達理論（パーソンズ、ホランド、キンズバーグ、シャイン）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
7	家族看護理論(三並)	家族看護理論（構造・機能的アプローチ、家族発達理論、家族シス	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う	学生が書籍や文献等で資料作成		

		テム理論など)についてディスカッション	【事後】400文字で振り返る	
8	オリエンテーション・若年女性を対象とした実験研究の内容と方法(三並)	講義の進め方の説明および教員自身のこれまでの研究内容と方法についての講義・ディスカッション	事前：これまでの論文について、一部は熟読し講義に臨む。質問も考えておく。 事後：自身の研究に活かせる知識をまとめてレポートを提出する。	学生が書籍や文献等で資料作成
9	在宅療養児者と家族のためのレスパイトケア(羽藤)	在宅療養児者と家族のためのレスパイトケアの実態と課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：在宅療養児者と家族に必要な支援を考察し、レポート提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
10	医療的ケアが必要な子どもと家族(羽藤)	医療的ケアが必要な子どもと家族への包括的な支援についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：包括的な支援を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
11	小児救急医療体制と小児救急看護の現状(羽藤)	小児救急医療体制と小児救急看護の現状と課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：小児救急看護の現状と課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
12	家族の養育環境と子どものレジリエンス(羽藤)	家族(母親・父親)の養育態度が子どもに及ぼす影響、課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：意見交換の省察より得られた課題についてレポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
13	児童虐待の防止と早期対策(羽藤)	児童虐待の防止と早期対策について、日本の動向、対策、課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：児童虐待に関する課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
14	被虐待児に対する心理・福祉領域からの支援と協働(羽藤)	子どもの虐待に携わる臨床心理士やソーシャルワーカーが、それぞれの専門職の視点からアセスメントとケアについての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：児童虐待に関する課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
15	小児の養育環境と家族のレジリエンス(羽藤)	小児の養育環境と家族のレジリエンスについて最新の研究を含めて探究する。	【事前】テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
16	試験			
教科書・参考文献など				
1. 米澤好史著：愛着障害は何歳からでも必ず修復できる(2022)				
2. 鵜飼奈津子・服部隆志：虐待を受けた子どものアセスメントとケア、心理・福祉領域からの支援と協働(2021)				
最終到達目標			評価方法	
小児看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究課題に取り組むことができる。臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修することができる。最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後にディスカッションができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDC0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC06				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	三並 めぐる 羽藤 典子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、小児と家族を対象とした小児看護学領域で活用されている研究方法を理解し、自己の関心のある現象を探究する上で必要となる研究方法を習得し、研究計画の立案ができることを目的とする。</p> <p>国内外の先行研究レビューから最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後ディスカッションを行い自己の研究課題を絞れるよう新規性の研究視点で取り組む。また、学生の研究課題や関心に応じて、関連学会等へ参加をし、そこから得られた新たな知識を踏まえて多角的な視点で自己の臨床現場の課題解決に繋げる、または小児看護の現場としての保育所、子育て支援センター、自立支援センター、病院施設などでのフィードワーク実施し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題を深める。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>ハイリスク新生児とその家族への実践（生命維持、痛みケア、デベロップメンタルケア、愛着、感染症対策）、小児事例に基づいてのコンサルテーション（プロセス、アセスメント、問題の明確化、課題、社会資源の活用、意思決定、倫理的配慮、ケア実践）、先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケアについて、国内外の研究論文から研究的課題と発展的実践について検討する。</p> <p>プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育について、さらに子どもの人権と倫理的配慮、家族アプローチ、無煙環境実現とその支援のためのプログラム開発などについて探究し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>判別分析による若年女性の冷え症を識別する指標、および学童期と思春期の女性に焦点をあてた冷え関連症状の緩和について、自研究を踏まえて論述するとともに、小児救急における事例のアセスメントと援助（発熱・呼吸障害・発疹・腹痛・頭痛・痛みなどの症状）については、実践現場のケーススタディにより、実践と研究とを往還的に思考を発展させるよう討議を重ねる。さらに、育児困難や児童虐待の事例への支援、児童相談所における児童虐待防止等の対応、地域における子育て支援などについて多角的に探究する。さらに、関連学会等への参加から得られた新たな知識を踏まえて多角的な視点で自己の臨床現場の課題解決につなげ自身の研究課題を明らかにする。</p> <p>先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケアについて子どもの発達段階における家族支援について、フィードワーク実施し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題を明らかにするとともに社会施策への提言を考える。</p> <p>（オフィスアワー 三並：水曜日 15：00～16：30 羽藤：火曜日 17：00～18：00）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1.2	オリエンテーション ハイリスク新生児とその家族への実践（三並 羽藤）	新生児の痛みのケアガイドラインを用いてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2020年（改訂）・実用版		
3.4	小児事例に基づいてのコンサルテーション（三並）	小児事例に基づいてのコンサルテーションについてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
5.6	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケア（三並）	重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドラインについてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン		
7.8	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育についてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		

	イ教育①(三並)			
9. 10	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育②(三並)	子どもの性の健康を守るために1~12についてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	「子どもの性の健康を守るために1~12」事前資料配布
11. 12	CRAFT理論による家族アプローチ(三並)	CRAFT理論による家族アプローチについてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
13. 14	子どもと家族の無煙環境(三並)	子どもと家族の無煙環境についてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
15. 16	小児救急における事例のアセスメント①(羽藤)	小児救急における事例(発熱・呼吸障害)に関連する実践現場のケーススタディを踏まえたディスカッション	事前:発熱・呼吸障害に関連する実践現場のケーススタディの説明の為、パワーポイントで資料を作成。事後:ディスカッションからの振り返りをする。	これまでの実践を踏まえた事例等から資料を作成
17. 18	小児救急における事例のアセスメント②(羽藤)	小児救急における事例(発疹・腹痛(嘔気・嘔吐を含む)等)に関連する実践現場のケーススタディを踏まえたディスカッション	事前:発疹・腹痛(嘔気・嘔吐を含む)に関連する実践現場でのケーススタディを説明する為、パワーポイントで資料作成。事後:ディスカッションからの振り返りをする。	これまでの実践を踏まえた事例等から資料を作成
19. 20	育児困難や児童虐待の事例への支援(羽藤)	育児困難や児童虐待の事例の理解と対応についてディスカッション	事前:テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う事後:400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
21. 22	児童相談所における児童虐待防止等の対応(羽藤)	児童相談所における児童虐待防止等の対応についての関連文献からの情報収集とディスカッション	事前:テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う事後:400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
23. 24	学会への参加(自身の研究課題に関する研究者間との意見交換)(三並 羽藤)	関連学会に参加し、小児看護、自身の研究課題に関連する情報収集を行うとともに、自身の研究課題に関して、研究者と意見交換を行う。	事前:学会抄録集などを事前に熟読し、自身の研究テーマ・課題に類似した研究者と意見交換ができるよう事前準備を行う。事後:学会において研究者との意見交換から自身の研究課題の再考を行う。	
25. 26				
27. 28	自己の研究課題の小児看護への発展(羽藤)	自身の研究課題に関連した小児看護における課題解決に向けた検討	事前:自己の研究課題について、その解決に向けて研究的思考をし、方向性を検討する。事後:意見交換から得た内容を今後の研究計画に活かす。	学生が資料作成
29. 30	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケアについて(羽藤)	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケア、家族支援についてフィールドワークし、その結果を報告・討議し、自身の研究課題を明らかにするとともに社会施策への提言を考える。	【事前】フィールドワークの訪問準備を行う。その結果をスライド8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	フィールドワーク 学生が体験したことを書籍や文献等を加えて資料作成
31	試験			
教科書・参考文献など				
1. 日本新生児看護学会: NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン(改訂)・実用版(2020)				
2. 日本小児科学会: 重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン(2012)				
3. 遠見才希子: 子どもの性の健康を守るために、1~12(2020)				

最終到達目標	評価方法
<p>小児と家族を対象とした小児看護学領域で活用されている研究方法を理解し、自己の関心のある現象を探求する上で必要となる研究方法を習得し、研究計画の立案ができる。</p> <p>国内外の先行研究レビューから最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後にディスカッションを行い自己の研究課題を絞れる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)</p>
履修判定基準・評価基準	
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )</p>	

授業コード	EDC0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC07				研究教育力	○
授業科目名	成人看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	佐伯由香 本田和男					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、社会生活の役割レベル、健康レベルが多種多様である年代を対象とする看護学領域であることを踏まえ、主に心疾患、消化器疾患などの救命救急場面、及びがんを含めて慢性期と終末期医療の場面に対するヘルスケアシステムの構築と最善のケアプログラム開発・検証について、臨床と研究の相互循環型研究に取り組むための科目である。クリティカルケア領域、慢性期ケア領域、周手術期からエンドオブライフケア領域に関する臨床上の課題、及び解決方法を明確化し、自研究遂行上で重要な意味を持つ要因を探究する。看護関連科学である医学的、薬理的、生化学的知識と、臨床推論に必要なアセスメント能力に関する知識と技術を修得し、対象者の生命、生活、自律、尊厳を守り整えることのできる看護の方向性について論述する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>病態生理と病気に対する生体反応など、医学的知識を活用し、対象の身体的状態を理解するための臨床推論、重症度判断技術を深める。またがんを含め、慢性的経過をたどる各疾患の臨床判断能力と教育的支援能力の発展、及び生活主体のケアプログラム開発を目指した課題設定を行う。そのため、フィジカルアセスメント、及び得られた情報の解釈分析について、病態に合わせて健康問題解決のための援助法を探究し、自研究課題の明確化と臨床指向型研究への示唆を得る。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 11：00-12：20)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	がん治療中、エンドオブライフの病態と症状	根治術、転移病巣への対応	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
2		内視鏡治療、ロボット手術				
3		それぞれの病態と看護について				
4		症例報告と検討				
5	化学療法中の病態と症状	抗癌剤への対応	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
6		各病態と看護について症例報告と				
7		検討				
8						
9	免疫療法中の病態と症状	癌免疫の考え方とその発展型	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
10		免疫療法と看護について症例報告				
11		と検討				
12						
13	移植後の病態と症状	腎移植、心臓移植、肝移植	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
14		それぞれの病態管理の症例報告と検討				
15	再生医療と遠隔医療と看護	心筋、網膜、脊髄、パーキンソン遠隔診療 それぞれの病態への対応の症例検討	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。科目全般の看護展開の検討を自研究と実践に活かす。	適宜指示		
16	試験					
<b>教科書・参考文献など</b>						
特に指定しない						

最終到達目標	評価方法
領域に関する臨床上の課題、及び解決方法を明確化する。 看護関連科学である医学的、薬理的、生化学的知識と、臨床推論に必要なアセスメント能力に関する知識を修得する。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDC0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC08				研究教育力	○
授業科目名	成人看護学開発特別演習 D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	佐伯由香 本田和男					
<b>授業の目的</b>						
<p>多様な年代と健康レベルでの CDU(Clinical Decision Unit)・災害場面、及び療養・生活支援場面における、国内外の研究動向と課題を明確にし、臨床現場で直面する問題を解決するため、シミュレーションとリフレクションを活用し、課題解決に向けた演繹的・帰納的実践能力開発のための技術と救命救急場面におけるケアプログラム開発について論議する科目である。そのため、諸外国の文献レビューと臨床現場の課題を、往還的にシミュレーション教育、リフレクションシンキングにより、直面している課題について解決法を議論する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>臨床現場における問題・課題に対して、演繹的、多角的に課題解決に取り組む。また救命救急場面等、及び生活支援場面における多様な課題設定に対し、生命と生活に対して臨床指向型の看護スキルと看護介入について細密に検証を行う。また、多職種連携、多職種協働における看護師の役割機能について論述するとともに、臨床現場で生じる倫理的問題、課題についてその解決法について論じる。自研究課題を明確にするとともに、研究的思考で多様な成長発達レベル、健康レベルの看護実践を探究する。</p> <p>(オフィスパワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	クリティカルケアの臨床推論と看護介入 倫理的判断 意思決定支援	救命救急・災害・慢性期・在宅の看護と臨床推論	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
2						
3						
4						
5						
6	がんの診断・治療からエンドオブライフに至る臨床推論と看護介入 倫理的判断 意思決定支援	根治術、転移病巣への対応 内視鏡治療、ロボット手術 それぞれの病態と看護の症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
7						
8						
9						
10						
11	化学療法における臨床推論と看護介入	抗癌剤への対応 各病態と看護の症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
12						
13						
14						
15						
16	免疫療法における臨床推論と感が介入	癌免疫の考え方とその発展型 免疫療法と看護の症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
17						
18						
19						
20						
21	移植医療と看護判断 意思決定支援	移植に関連する病態と症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
22						
23						

24				
25				
26	再生医療と遠隔医療と看護判断	再生医療と遠隔医療と看護介入	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示
27				
28				
29				
30				
31	試験			
教科書・参考文献など				
特に指定しない				
最終到達目標			評価方法	
生命と生活に対して臨床指向型の看護スキルと看護介入について検証できる。多職種連携、多職種協働における看護師の役割機能について論述できる。臨床現場で生じる倫理的問題、課題についてその解決法について論じることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1 学年・通年	単位数	2			
担当教員	河野保子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として、「研究計画」を展開するための科目である。展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い倫理審査を受ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>学生自身の個別テーマに合わせて研究指導を実施する。担当教員のこれまでの研究テーマは、①日常生活活動（ADL）がQOLに及ぼす影響の検証、②健康回復と自己効力感との関連性の検証、③看護職者のアサーションに関する開発、④医療における患者の人権保障と自己決定支援の開発、⑤看護実践と倫理的意思決定支援の開発等である。</p> <p>看護の課題解決に向けて学術的に意義のある博士論文を作成するために、科学的・創造的・新規的な研究取り組みを必要とし、国内外の文献検討、正確で必要かつ十分なデータ収集やデータ分析、論理的・客観的な論文の作成が求められる。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究指導教員のガイダンス、及び副指導教員の紹介</li> <li>研究課題の確認、イメージのさらなる検討</li> <li>研究スケジュールの検討</li> </ul>		【事前】ガイダンスを受け自身の研究の進め方を調整する。【事後】ガイダンス後に、自身の研究スケジュールを再調整する。	関連文献	
2	研究動機の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題に対する「問い」とその背景を明確化する。</li> </ul>		【事前】研究課題のイメージの深化、国内外の文献検索。【事後】研究指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
3	研究課題に関連した国内外の文献検索と文献クリティーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の文献検索の方法</li> <li>文献のクリティークにより、自身の研究課題への応用性を分析する。</li> </ul>		【事前】関連する文献を集める。【事後】文献クリティークにより、研究テーマの新規性・斬新さ、研究方法の妥当性、データの収集法、データの客観性・信頼性、結果・考察の論理性・新規性・妥当性等を理解する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
4	同上	同上		同上	同上	
5	同上	同上		同上	同上	
6	同上	同上		同上	同上	
7	同上	同上		同上	同上	
8	研究課題の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の文献検索、文献クリティークから自身の研究課題を焦点化する。</li> </ul>		【事前】自身の研究テーマを絞り込む。【事後】研究テーマの決定後は、特に関連する文献を精査する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
9	研究の概念モデルの構築（用いる	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究目的、研究の概要から研究の概念モデル、あるいは用いる</li> </ul>		【事前】自身の研究テーマ、研究の問い、研究で明らかにしたいこ	関連文献	

	理論の決定)	理論を検討する。	とを踏まえて、概念モデルの構築、あるいは用いる理論を検討する。 【事後】指導教員とのディスカッションをノートに書く。	
10	研究テーマ、研究目的の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを決定する。</li> <li>研究目的を文章化する。</li> </ul>	【事前】研究テーマ、研究目的を文書化する。【事後】研究テーマ、研究目的を確実なものとする。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
11	論文を形成する複数のリサーチクエスチョンの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>博士論文の基本構造の作成。</li> <li>小RQの位置づけ・内容の検討</li> <li>博士論文で明らかにする内容と小RQを関連させて、かつ俯瞰的に検討・分析する。</li> </ul>	【事前】博士論文の基本構造について再確認する。【事後】自身の研究の進め方を再確認する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
12	研究計画書の作製	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究デザイン、研究方法、倫理的配慮等の記載をする。</li> <li>研究計画書の記載マニュアルに従って書く。</li> </ul>	【事前】研究計画書の記載マニュアルを読む。【事後】研究計画書を作成する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
13	博士論文計画発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会に向けて、研究要旨を作成する。</li> <li>パワーポイントを作成する。</li> </ul>	【事前】自身が主張したい内容について把握する。発表要旨の作成、パワーポイントの作成をする。【事後】発表会で指摘されたことを検討する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
14	研究計画書の修正・完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会で指摘を受けたことに対して修正する。</li> <li>研究計画書を完成させる。</li> <li>研究計画書の審査で合格する。</li> </ul>	【事前】発表会での指摘を真摯に受け止め表現する。【事後】研究計画書を完成させる。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
15	倫理申請書の作成・提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理申請書の内容に従って作成する。</li> <li>研究内容に即した倫理申請書を作成する。</li> </ul>	【事前】倫理的配慮について熟考する。【事後】審査結果に応じた修正・加筆する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
16	試験			
教科書・参考文献など				
研究課題に必要な文献等は学生自身で検索する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の文献検討を通して、看護実践開発の構築に必要な研究課題を設定できる。</li> <li>研究テーマに基づき研究目的が設定できる。</li> <li>研究目的に応じた複数のリサーチクエスチョンが設定できる。</li> <li>複数のリサーチクエスチョンは、それらの目的に応じて研究方法等を設定できる。</li> <li>研究目的に応じた研究デザインを作成できる</li> <li>研究テーマ、目的、研究方法が内包された研究計画書が作成できる。</li> <li>研究計画書に基づき研究構想発表ができる。</li> <li>倫理審査委員会に申請書を提出・承認を受ける。</li> </ul>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDC0902			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	佐伯 由香					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として、「研究計画」を展開するための科目である。展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い倫理審査を受ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>学生自身の個別テーマに合わせて研究指導を実施する。文献レビューによる課題の焦点化と課題の選定、研究目的の明確化とそれに合う研究方法の検討を行う。研究方法を決定した後、研究計画書の作成と倫理審査申請書の作成を行う。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマを以下の通りである。</p> <p>1. 看護技術の心身に及ぼす影響、2. 補完代替療法の心身に及ぼす影響、3. 疼痛の客観的評価と緩和方法の検証、4. 清潔ケアが皮膚生理機能に及ぼす影響</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション	学生自身の研究に関連する文献の検索、レビューを行い、関連する研究周辺の様々な知識を整理・分析し、研究課題を絞る。	興味のある領域の専攻研究を探索し、研究課題の周辺テーマをについて情報を集約する。文献を客観的に精査し、課題の周辺の研究の整理・分析を行う。	適宜指示		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、それを達成するための研究方法を検討する	先行研究を精査し、目的達成のための研究方法を選択する。	研究計画書を作成する。いくつかの研究で構成されるように研究を構築し、往還的な研究に進化させる。	適宜指示		
7						
8						
9						
10	研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立てて、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる。	計画書を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後の指摘事項を加味して計画書を修正する。	適宜指示		
11						
12						
13	1年次の内に研究倫理審査を行う	研究倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する。	適宜指示		
14						
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘された部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する。	倫理審査と計画書を読み返し、指摘があれば改善する。	倫理申請書案		
<b>教科書・参考文献など</b>						
<p>1. 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2023</p> <p>2. 牧本清子、山川みやえ：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版、2020</p>						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		

1. 自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。 2. 研究倫理審査委員会に申請書を提出し、承認を得る。 3. 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。	
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDC0903			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、臨床志向で、臨床と教育の往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>担当教員が展開する授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どもの QOL 向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 15:00-16:30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目刈エーション	自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビューによる研究課題周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。	関連文献は自身で検索 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円 (2023) 2 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択し、研究の意義と価値を示す。	研究計画書を記載していく。いくつかの研究で構成されるように研究を設計し、往還的な研究であることを確認する。	研究計画書案		
7						
8						
9						
10	1年次 11月に研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索		
11						
12						

13	1 年次以内に研究倫理申請を行う	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する	D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010.
14				
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する	倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善する。	倫理申請書案
教科書・参考文献など				
教科書				
1 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円（2023）				
参考書				
1 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円（2020）				
2 D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、10,450円（2010）				
3 その他、研究方法に沿った参考書				
最終到達目標			評価方法	
1 自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)	
2 倫理委員会に申請書を提出する。				
3 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。				
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0905			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と円環的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受けることを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は1年次の11月に研究計画書発表後、1月に研究計画書完成し、3月の倫理審査委員会へ提出審査を受けることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。研究課題の検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。関心あるテーマについてグループディスカッションを行う。	事前にシラバスを読み、年間スケジュールを把握する。事後には関心あるテーマについて授業中にレポート課題を指示すので文章化する。	大学院要覧 適宜提示		
2	研究課題の明確化：文献検討	各自の持参した論文とレポート課題を発表し、グループディスカッションしつつ研究課題を明確化する。	事前に第1回目の事後レポートを参考にキーワードに沿って文献検索し、授業中に提示できるようにする。事後は文献を検討し研究課題を明確化しレポートする。	適宜提示		
3	研究テーマと研究枠組みの決定：文献検討	研究課題に関連した国内外の文献をレビューしてグループディスカッションしつつ研究テーマを決定する。	事前に研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテイクしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	研究枠組み等の発表	②-⑥の授業を参考に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを準備する。事後は研究計画書の内容を確認して発表の内容を記載しておく。			
5	研究計画書の作成	研究計画書の発表とグループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示		
6	調査対象の選択・調査現場の連絡調整等の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、依頼文を検討し、具体的に連絡しておく。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文を作成する。	適宜提示		

7, 8	研究計画書の修正	研究計画書の発表とループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示
9	研究計画書発表会の準備	発表会に向けての準備をする	発表会に向けてのパワーポイントとレジメの作成、発表の練習	適宜提示
10	研究計画書発表会	研究計画書の発表	事前に指摘される点について検討しておく。事後は指摘された点のまとめをしておく。	
11	研究計画書の完成	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、研究計画書を完成させる。	事前には指摘された内容について検討修正し授業に臨む。	適宜提示
12, 13	倫理申請書の作成提出	倫理委員会の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に倫理委員会の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究計画書の修正	倫理委員会の審査決定後に必要な書類や研究計画書の修正をする。	倫理委員会の決定に沿って事前・事後に書類や研究計画書の修正をする。	適宜提示
15	調査対象や確定、調査依頼の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、調査の依頼文の修正等書類を完成させ、連絡をする。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文等の書類を作成する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
参考文献 *看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングラ著、医学書院、(2014)、*バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (23015)、適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討及び研究テーマの決定、研究方法論の決定ができる。 2. 研究計画書を作成し、研究発表会に臨める。 3. 研究計画書を修正し、完成できる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出でき、適宜修正箇所を修正し審査を通ることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 II D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2 学年・通年	単位数	2			
担当教員	河野保子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことをねらいとして、「研究計画」を展開するための科目である。看護実践開発特別研究 1D で作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究手法を用い、研究活動を遂行することを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>研究倫理審査の承認後、研究計画に基づき研究実施の依頼と同意/承諾を得る。研究データの収集や信頼性・妥当性のある手法を用いてデータの分析を行い、研究目的との整合性において結果を導き出す。研究課題の間いごとに目的、方法、結果、考察を論述し、かつ全体としての研究課題との一貫性・整合性を見極めていく。新規性・独創性のある研究論文を作成し、副論文として学術誌に投稿する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：10-14：40)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題の確認、研究イメージの発展</li> <li>研究スケジュールの検討</li> </ul>		【事前】ガイダンスを受け、自身の研究の進め方を確認する。【事後】ガイダンス後に、自身の研究スケジュールを再調整する。		
2	倫理審査結果の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理審査結果の指摘箇所と研究計画との再調整</li> </ul>		【事前】倫理審査を真摯に受け止め研究計画に反映させる。【事後】研究活動を進める準備をする。		
3	研究活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画に沿った研究の遂行</li> <li>データ収集</li> <li>データ分析と結果</li> <li>研究目的との検討</li> </ul>		【事前】綿密な計画を立てる。【事後】研究の間いごとにデータを収集・分析、結果を把握する。	各種のデータ解析法関連の図書、原著	
4	同上					
5	同上					
6	同上					
7	同上					
8	2 年次 ; 11 月の中間発表への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一段階の研究課題に対するデータ分析・結果を踏まえた論文作成</li> <li>中間発表のプレゼンテーション資料の作成</li> <li>研究の各段階のデータ分析と研究論文の作成準備</li> </ul>		【事前】データ収集の管理を確実に行う。データ分析、考察を行い、研究目的、方法、結果、考察を導き、発表の準備をする。【事後】研究の各段階ごとの論文作成に着手する。	中間発表資料	
9	同上					
10	同上					
11	学術誌へ副論文の投稿	<ul style="list-style-type: none"> <li>副論文の投稿、及び学会発表</li> </ul>		【事前】得られたデータを分析し、目的、方法、結果、考察、結論などを整えて学術誌に投稿する。【事後】査読の結果に真摯に対応する。	副論文	
12	同上					
13	同上					

14	同上			
15	副論文の掲載	・ 博士学位論文授与の要件	【事前】 副論文の内容を踏まえ、博士学位論文の完成度を高める。 【事後】 次段階の論文執筆へと研究を発展させる。	掲載誌の別刷
教科書・参考文献など				
研究課題に関連した文献は学生自身で検索する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究計画に従って、研究を実施できる。</li> <li>・ 倫理的配慮の元、適切なデータ収集ができる。</li> <li>・ 収集したデータを集計・分析し、各研究段階の研究として結果と結論を導き出すことができる。</li> <li>・ 中間発表において自身の研究成果を報告できる。</li> <li>・ 副論文を作成し、学術誌に投稿できる。</li> </ul>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )				

授業コード	EDC1002			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 II D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
本科目は看護実践開発特別研究 ID で作成した研究計画に基づいて、研究目的を達成するよう調査を遂行することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
研究データの収集、信頼性・妥当性のある手法を用いてデータの分析を行い、研究目的に沿った結果を導く。さらに得られた結果を考察し、目的、方法、結果と一貫性、整合性があるか確認する。新規性、独創性のある研究論文を作成し、副論文として学術誌に投稿する。						
(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション	研究課題ならびに今後のスケジュールについて確認する	学修課題に沿った準備	適時指示		
2～6	データ収集	計画書に沿って目的とする第1段階のデータ収集を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
7～11	データの分析と整理	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
12	結果のまとめ	分析された結果を整理してまとめる	学修課題に沿った準備	適時指示		
13	考察	結果の考察を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
14	学内発表	中間発表の資料を作成し、発表を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
15	副論文の投稿	論文の発表を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
<b>教科書・参考文献など</b>						
適時指示						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
中間発表で成果を報告できる。 研究課題の一部を副論文として投稿できる。				副論文の完成度 (80%)・プレゼンテーション (20%)		
<b>履修判定基準・評価基準</b>						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EDC1003			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、本科目は、看護実践開発特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究手法（調査、実験、質的研究）を用い、研究活動を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性・妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文（新規性、独創性、社会的意義）を作成するとともに学術誌の投稿を指導する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どもの QOL 向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (三並) 研究活動を推進し、調査を実施する。	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	2年次11月に中間発表としてデータ解析の結果と考察を発表する。	1段階の調査を集計・分析し、結果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切にする。	データの分析を行う。結果を出し、考察し、結論を導き、発表する準備をする。質疑の内容を加味し、論文に活かす。次の調査の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学会に副論文を投稿する。	学会発表及び論文を投稿する。	データを分析し、	副論文		
13						
14						
15	副論文を投稿し掲載が決まる。	各雑誌の執筆要領と論文審査に則って、論文の完成度を挙げて掲載が決まる。	第1段階から次段階の調査へ移行し、調査を始める。	副論文		
<b>教科書・参考文献など</b>						
<b>教科書</b>						
1 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円（2023）						

<b>参考書</b> 1 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円（2020） 2 D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、10,450円（2010） 3 その他、研究方法に沿った参考書	
<b>最終到達目標</b>	<b>評価方法</b>
自己の研究計画に追って、調査を実施し、倫理的配慮を徹底して実施したうえでデータの収集ができる。 収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。 副論文投稿できる。	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)
<b>履修判定基準・評価基準</b>	
<b>履修判定基準：</b> <b>評価基準：</b> 評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDC1005			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 II D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究 ID で作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究方法（調査、実験、質的研究）を用い、研究活動を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性・妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文（新規性、独創性、社会的意義）を作成するとともに学術誌の投稿を目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は2年次の11月に博士論文中間発表、1月に研究計画書完成し、3月副論文完成し投稿することを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。調査項目と調査方法を検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。研究計画調書に沿って調査項目と調査方法を検討する。	事前に研究計画所に沿って、今後のスケジュールを立案する。事後には関心あるテーマについて授業に調査票の内容を検討し、次回の提出に備える。	大学院要覧 適宜提示		
2	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査依頼。	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査票、インタビューガイドを作成する。調査依頼をする。インタビューや調査票配布についてあらかじめのシュミレーションを行う。調査を依頼する。	事前に調査対象者への依頼文、同意書を作成する。調査票やインタビューガイドの準備をする。事後にはインタビューや調査票配布についてあらかじめのシュミレーションを行う。調査対象者についての情報を整理する。データ入力の準備をする。	適宜提示		
3	調査依頼・データ収集	調査対象者にインタビューや調査票配布をおこなう。必要時追加の依頼を実施する。	事前に調査についての進め方や関連施設の人との打ち合わせをし、検討事項、回収時期や方法を確認する。事後は調査票やインタビュー内容を整理しデータ入力を行う。研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテイクしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果についてディスカッションを行う。	事前にデータ入力と分析方法を確認し、分析に必要なソフトや枠組みを準備する。事後はデータ分析の適切な処理を確認する。	適宜提示		
5	データ分析と結果の図表化	分析の結果を計画書に従って図表化したものを検討する。考察の	事前に検討した分析結果を図表化しておく。結果を考察できる文献	適宜提示		

		方向性についてディスカッションを行う。	を検索しておく。事後は図表の文献を修正し、考察を展開できるような文献を検索し、結果と考察の方向性を決定する。	
6	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、ディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	適宜提示
7	研究論文の中間発表の準備	研究論文を中間授業中に発表のシュミレーションを行い意見交換する。	事前に研究論文を中間発表できるように、パワーポイントとレジメを作成し、発表練習する。事後は授業での検討内容についてパワーポイントやレジメを修正し、再度発表練習をする。	適宜提示
8	研究論文の中間発表	発表会で研究成果を発表し、質疑応答に解答する。	事前に発表会資料の確認をし、発表の練習をする。事後に発表会で指摘された意見を整理して論文についての課題を明確化する。	
9、10	研究論文の作成	発表会での意見で明確化された課題をもとに修正された論文についてディスカッションを行う。最終の研究発表の準備の進捗状況を発表する。	事前に発表会で指摘された意見をもとに明確化された点を反映させ論文を修正する。必要時文献の追加修正も行う。事後は授業中に得られた知見をもとに論文を修正し、	適宜提示
11、12	研究副論文の投稿の準備	副論文の投稿するための準備したものを再検討する。	事前に論文の最終発表会で指摘が予想される点について投稿内容を修正する。事後は再検討結果で論文を修正する。	適宜提示
13	研究論文の投稿提出	投稿論文のおよび関連書類について検討し、完成後に提出する。	事前に投稿関連の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究論文の査読結果の修正	投稿論文の査読結果で指摘をもとに論文修正を行う。	事前に査読で指摘を受けた点について論文の修正を行う。事後は授業で受けた意見をもとに論文を見直す。	適宜提示
15	研究論文の査読後修正・最終提出	査読で指摘を受けた箇所の修正を修正し、論文を提出する。第1段階から第2段階の調査に移行する。	事前に査読で指摘を受けた箇所の修正を修正する。事後に論文を様式も含め最終確認し提出する。第2段階の調査の準備をする。	適宜提示
教科書・参考文献など				
参考文献 *看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングレー著、医学書院、(2014)、*バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Grove 著、ELSEVIER (23015)、適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門領域において意義のある研究課題を設定できる。</li> <li>2. 研修課題に関する文献を論文に反映できる。</li> <li>3. 研究課題に適した研究方法を実施できる。</li> <li>4. オリジナリティのある論文が投稿できる。</li> <li>5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。</li> </ol>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDC1101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	河野保子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする。幾つか設定したリサーチクエスションの解を見出し、その解を統合的・総合的にまとめて分析し、一つの研究成果として論述する。博士論文として展開した研究は、新規性・独自性・信頼性、及び妥当性があり、看護実践や看護の発展に貢献するものでなければならない。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、3年次の3月に博士号（看護学）を取得するために、幾つか設定したリサーチクエスションのそれぞれに対して、情報収集された結果に対して信頼性・妥当性のある分析を行い研究成果を導き出すとともに、導き出された各研究成果を、研究目的に沿って論理的・批判的に考察し、一つのストーリーとして研究成果をまとめる。研究成果は、研究科から指示された各種発表会や副論文の作成など、学習課題を遂行しなければならない。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：30-16：30）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～4	データ収集	研究計画書に基づき研究を進める	事前・事後 学修計画に沿ったチェック	関連文献		
5～7	データ入力	研究計画書に沿ったデータの整理を行う	事前・事後 学修計画に沿ったチェック	関連文献		
8～9	データの分析	研究計画書（目的など）を踏まえたデータの分析をする	事前・事後 学修計画に沿ったチェック	関連文献		
10～11	中間発表Ⅱに向けた研究成果の報告作成と発表	データの分析に基づき、研究成果の報告書を作成し、中間発表に臨む	事前：分析結果、及び発表抄録の点検 事後：中間発表Ⅱにおいて指摘された箇所の確認	関連文献		
12	予備審査申請書の作成	予備審査書を作成し、申請を行う	事前・事後 学修計画に沿ったチェック	関連文献		
13	本審査に向けた博士論文の仕上げ	本審査に向けた博士論文の加筆・修正を行い、博士論文として提出する	事前・事後 研究目的、方法、結果などに関して入念なチェック	関連文献		
14	本審査	本審査を受け、最終試験に臨む	事前：自身の研究成果の確認 事後：本審査での指摘の理解と修正	関連文献		
15	博士論文最終発表会	博士論文最終発表会に臨む	事前：自身の研究成果の発表準備	関連文献		
<b>教科書・参考文献など</b>						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 博士論文を作成できる</li> <li>② 博士論文の中間発表Ⅱを行うことができる</li> <li>③ 博士論文の予備審査を受けることができる</li> <li>④ 副論文を執筆し、学術誌に投稿・受理される</li> <li>⑤ 博士論文の本審査受け、最終試験に合格する</li> <li>⑥ 博士論文最終発表会を行うことができる</li> </ul>				<p>課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆（90%）、プレゼンテーション（10%）</p>		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDC1103			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
授業の目的						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスチョン）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究成果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。そして総合的考察と臨床への研究的サジェスチョンで展開する研究論文は、新規性と独創性があること、実践に応用可能であること、今後、各領域の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開する。</p>						
授業の概要						
<p>一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究成果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスチョンで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の各領域の看護学に発展的に貢献することが可能であることを重要視して、論旨を展開する。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どものQOL向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 15:00-16:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (三並)	各調査と分析が終了し、本格的に博士論文作成に取り組む。 11月までに博士論文を完成し、予備審査関連書類とともに論文を提出する。副論文提出も必要となる(掲載が決定している場合は証明書でも可)	調査の分析と考察、博士論文の執筆、各種書類の準備を整える。提出後は、3年次中間発表の準備を行う。同時に論文の内容を確認し、質疑に対応できるよう必要なデータは手元に置けるように準備する。論文は執筆要領と審査基準を確認し、内容が基準を満たすように記述する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	3年次11月に予備審査願を提出し、審査を受ける	必要な書類を整えて、審査願を提出した後に、11月-12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度(主査の指示による)で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。 博士論文の中間発表を行う	審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者が分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。 中間発表の準備をする	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41		
10						
11					11月に中間発表を行う	
12	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受	予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の	質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明で	必要な資料は配布 松山看護学研究		

13	ける。	審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	きるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する（指摘内容と修正箇所が示された表も必要）。再度審議を受ける。不合格となった場合は、次年度の提出までに見直す。最終発表の準備をする。	科2023年度大学院要覧、p32-41
14	2月博士論文最終発表を行う（研究科の審査の一環）	最終発表を行う。		
15				
16	最終論文審査と口頭試験を受ける			
教科書・参考文献など				
大学院要覧				
最終到達目標			評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。</li> <li>2. 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出できる。</li> <li>3. 中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終えることができる。</li> <li>4. 最終的には論文審査に合格する。</li> </ol>			課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆(90%)・プレゼンテーション(10%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1105			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスト）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究成果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。そして総合的考察と臨床への研究的サジェスションで展開する研究論文は、新規性と独創性があること、実践に応用可能であること、今後、各領域の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開することも目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしながらテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は3年次の10月に博士論文予備審査書類提出、11月博士論文中間発表、1月博士論文本提出・本審査、2月博士論文最終発表、最終審査、最終試験があることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。第2段階の調査の実施を行う。	各調査と分析が終了し、博士論文の執筆を行う。副論文の投稿が必要な際は投稿する。	調査と分析を行う。副論文の投稿が必要な際は投稿する。	大学院要覧 適宜提示		
2、3	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果について論文を追加する。それらの内容をディスカッションする。	事前にデータ入力と分析し結果を執筆する。分析の適切な処理を確認する。事後はディスカッションの内容について論文に盛り込んでいく。	適宜提示		
4、5	研究論文予備審査提出の準備	10月までに論文を完成し、予備審査書類と副論文を提出できるように準備をする。（掲載が決定している場合は証明書でも可）	博士論文の執筆をおこなう。各種書類の準備を整える。	大学院要覧 適宜提示		
6-9	研究論文の審査提出後の中間発表の準備	11月までに必要な書類を整えて、審査願を提出する。その後、11月から12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度（主査の指示による）で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておいき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。論文追加修正し中間発表の準備をする。	審査時の質疑にこたえられるよう、準備をする。市KK差結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑やしていき事項に対する等、審査者がわかりやすいよう提示する。不合格になった場合は、次年度の提出に向けて論文の内容を無吟味し、追加・修正する。	大学院要覧 適宜提示		
10	中間発表の直前の準備	11月の中間発表会の準備を行う。	中間発表会の最終準備を行う。	大学院要覧 適宜提示		

11-14	博士論文審査書類を提出し審査を受ける準備	1月に博士論文審査書類を提出し審査を受ける準備ができる。予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の審査者で行われる、審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明できるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する(指摘内容と修正箇所が示された表も必要)。再度審査を受ける。不合格になった場合は、次年度の提出までに見直す。	大学院要覧 適宜提示
15	博士論文最終発表(研究家の審査の一環)の準備	2月の博士論文の最終発表の準備を行う。	最終発表の準備を行う。	大学院要覧 適宜提示
	最終論文審査と口頭試験			

### 教科書・参考文献など

#### 参考文献

\*看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングラ―著、医学書院、(2014)、\*バーズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (2015)、適宜提示する。

#### 最終到達目標

1. 博士論文を執筆し、予備審査・本審査をうけることができる。
2. 各審査で質疑応答に対応でき、各審査の助言および指摘について、論文を適切に修正し提出できる。
3. 中間発表・最終発表で自己の研究の報告ができる。最終的に論文審査に合格ができる。
4. 専門領域のオリジナリティのある論文が投稿できる。
5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。

#### 評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する  
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)

#### 履修判定基準・評価基準

##### 履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD01				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	赤松公子 岡多枝子					
授業の目的						
本研究は、高齢者看護学の研究動向を踏まえ、高齢者の身体的健康レベルを高めるための介護予防の支援と、QOLを高め、尊厳を守ることを目標とした先駆的看護介入、及び先進的技術開発と検証を目指すための科目である。諸外国の保健医療福祉介護の制度の現状と、日本の超高齢多死社会の課題を分析するとともに、自己が展開する看護の場における課題を分析し、ケアの展開方法論、評価法、管理法などに関する自己の研究課題遂行への示唆を得る。						
授業の概要						
<p>(赤松公子/8回) 介護予防のための取り組みの現状を分析し、介護予防を推進する方策を探究する。日常生活維持の視点から身体的、心理的、社会的側面を的確に評価する方法を探究する。認知症看護に関連した研究の動向から、認知症看護の課題を分析し、その解決方法を探究する。</p> <p>(岡多枝子/7回) 日本の超高齢社会の現状と高齢者の健康、QOLについて考察し、諸外国の高齢者保健医療福祉制度と、日本の制度に関する研究実態から高齢者看護の課題を検討する。高齢者の尊厳を維持するための社会的課題と権利擁護に関する制度、及びその研究について諸外国の動向を考察する。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	授業前半の進行について		適時提示		
2	介護予防のための健康維持に関する研究の動向(赤松)	介護予防のための取り組みの現状を分析し、介護予防を推進する方策を探究する。	介護予防のため取り組みに関する先行研究の文献検討を行う。			
3						
4	生活評価に関する研究の動向(赤松)	日常生活維持の視点から身体・心理・社会的側面から生活の評価する尺度を概観する。	身体・心理・社会的側面から生活の評価する信頼性・妥当性のある尺度の文献検討を行う。	適時提示		
5						
6	認知症看護の課題と解決方法(赤松)	認知症看護に関連した研究から認知症看護の課題を分析し、その解決方法を探究する。	認知症看護に関する先行研究の文献検討を行う。	適時提示		
7						
8	まとめ	日本の超高齢社会の現状を踏まえ、高齢者の健康を維持するための看護職の役割について議論する。	日本の超高齢社会の現状を踏まえ、高齢者の健康を維持するための看護職の役割について議論できるようにまとめる。	適時提示		
9	オリエンテーション 高齢者に関連する諸制度(岡)	授業後半の進行 国内外における高齢者の現状と課題、健康関連実態の探究・プレゼンテーション・ディスカッション。	事前学修：高齢者の健康・QOL・心理に関する先行研究の文献検討。 事後学修：高齢者看護の実態の整理。	適時提示		
10						
11	高齢者に関連する保健医療福祉の制度(岡)	国内外の高齢者の保健医療福祉に関連した制度の探究・プレゼンテーション・ディスカッション。	事前学修：身近な高齢者に関連する制度の確認。 事後学修：国内外の各種制度の異動の整理と課題の考察。	適時提示		
12						
13	高齢者看護の倫理、高齢者の権利擁護に関する制度と実態(岡)	高齢者の倫理関連の法制度の現状と課題、認知症とCovid-19の影響のケースレポート・プレゼンテーション・ディスカッション。	事前学修：高齢者の倫理に関する法制度の調査とケースレポート。 事後学修：交換した情報の整理、高齢者の人権・尊厳に関する先行	適時提示		
14						

			研究の総括。高齢者の権利に関するレポート作成・提出。	
15	日本における高齢者制度の課題と地域包括ケア(岡)	地域包括ケア、加えて高齢者の権利擁護に関連した研究動向の探究・プレゼンテーション・ディスカッション。	事前学修：地域包括ケア研究に関する文献調査。 事後学修：地域包括ケアにおける高齢者看護の役割と機能の整理。	
16	試験			
教科書・参考文献など				
適時紹介する。				
最終到達目標			評価方法	
日本の超高齢社会の現状と高齢者の健康、QOL について省察し、諸外国の各種法制度から日本の高齢者看護の課題を考察できる。高齢者の尊厳を維持するための社会的課題と権利擁護に関する制度、及びその研究について諸外国の動向から日本の高齢者医療・看護の課題を考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )				

授業コード	EDD0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD02				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学 特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	赤松公子 岡多枝子					
<b>授業の目的</b>						
<p>高齢者保健医療福祉介護の先進的介入方法について、諸外国と日本の現状から新たな技術を取り入れた取り組みについて、知識と技術の発展と、高齢者の QOL を高めるために、質の高い高齢者看護実践の探究を目的とした科目である。高齢者の日常生活を支援するための、新たな取り組み、技術開発について、研究的視点でケアプログラム、およびケア関連学会参加等により、得られた新たな知識を踏まえて多角的な視点で自己の臨床現場の課題解決、自己の研究課題の明確化への示唆を得る。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(赤松公子/15回) フィールドワークを通じて質の高い高齢者看護実践とは何かを探究し、自己の研究課題を明確にする一助とする。</p> <p>(岡多枝子/15回) 看護の質評価と管理法、先端技術を活用した看護ケア開発、エンドオブライフケアの支援法開発、高齢者に関する制度構築や課題等に関する各自の研究テーマに沿って、先駆的实践から自己の展開する臨床現場や研究フィールドの課題と対策・解決に向けた戦略を明確にする。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	前半オリエンテーション (赤松)	前半 15 回の授業の進め方について		適時提示		
2						
3	高齢者看護に関する研究の動向調査 (赤松)	先行研究を通じて高齢者看護に関する研究の動向調査を行い、高齢者看護における自己の研究課題の位置づけを行う。	高齢者看護に関する研究の動向調査を行う。			
4						
5						
6						
7	動向調査成果発表 (赤松)	動向調査に関する成果発表				
8	自己の課題の合わせたフィールドワーク計画立案 (赤松)	フィールドワークの計画に関する議論を行う。	フィールドワークの計画立案			
9						
10	自己の課題の合わせたフィールドワーク (赤松)	フィールドワーク	フィールドワーク			
11						
12						
13						
14						
15	フィールドワーク成果発表 (赤松)	フィールドワークに関する成果発表				
16	後半オリエンテーション (岡)	後半 15 回の取り組み設計の確認と、プレゼンテーションとディスカッション。	事前学修：シラバス確認と課題取り組みへの準備。 事後学修：取り組み設計に基づくレポート提出。	資料配布		
17						
18	自己の課題に関連する高齢者看護ケア研究の動向 (岡)	複数編選定した先行研究による高齢者看護ケアの考察と資料作成、プレゼンテーションとディスカッション。	事前学修：発表資料作成と発表準備、議題提案の準備。 事後学修：高齢者看護ケアの課題を追究するレポート提出。			
19						
20						
21						

22	自己の課題に関連する学会参加とディスカッション(岡)	自己の研究課題に関連する学会等に参加。高齢者看護学に関する情報収集と研究者・関係者とのディスカッション。	事前学修：学会等の抄録集の概観と討論準備。 事後学修：学会での議論や獲得した知見・研究課題の総括レポート提出。	
23				
24				
25				
26	自己の課題に合わせた高齢者研究への発展(岡)	自己の課題に関連する高齢者看護ケアや倫理、課題解決法の検討と資料作成。後半 15 回の総括。	事前学修：高齢者研究と自己の研究課題の考察。 事後学修：後半 15 回で得た知見の総括・深化とレポート提出。	
27				
28				
30				
31	試験			
教科書・参考文献など				
適宜提示				
最終到達目標			評価方法	
先駆的实践から自己の展開する臨床現場、及び研究フィールドの課題と対策・解決に向けた戦略について考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括精神看護学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
本研究の目的は、現代の社会および看護学や精神看護学研究の動向を踏まえ、精神保健看護の科学的発展につながる看護介入・介入方法や技術開発、理論構築に向けた研究能力思考の向上を目指す。						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目では、諸外国と我が国の看護学および精神保健看護学の比較を通し、わが国の抱える精神医療や精神保健看護が抱える課題の分析を行う。そこには、日本独自の文化的背景や行政政策といったマクロの視点、人間のもつ集団心理から個々の心理社会的側面といったミクロの視点が含まれる。その上で、課題の明確化および課題解決に向けた概念化を図り、研究遂行への研究思考と示唆を得る。</p> <p>講義の具体的内容として、地域で生活する当事者の方とその家族への看護介入、家族の高齢化に伴う問題とその支援、精神疾患の早期発見・早期治療の難しさ、日本の精神科病床数の多さや身体抑制件数の多さといった精神科医療が抱える問題、精神科医療の場で繰り返される人権侵害への発生メカニズムと防止についての研究等を先行文献を用い、諸外国と我が国で比較し様々な角度から検証する。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:00-13:30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	授業オリエンテーション	15回に渡る授業の構成と取り扱いテーマや課題を決定していく。		事前：本科目で取り扱いたいテーマを考えておく。 事後：課題テーマについて、文献検索を行う。		
2～4	地域生活に向けた課題	日本と諸外国の比較を扱った文献を抄読し、文化的あるいは行政政策の相違点から現状を把握する。例えば地域移行の先進国となったイタリアなど		事前：文献検索により、課題テーマの絞り込みを行う。 事後：比較することで捉えられた内容の整理を行う。		
5～6	地域生活に向けた課題の構造化	諸外国との比較を通し、日本の課題・問題の構造化を図り、発表を行う。		事前：内容の整理から、独自で考えた課題・問題の構造化を行う。 事後：授業内容から構造化の修正を行う。		
7～11	精神科医療が抱える倫理的問題	日本の精神科医療が抱える倫理的問題を事例検証や現在までの先行研究を通し、集団心理や個々の心理社会的側面から分析を行う。 ケース1 ケース2 ケース3		事前：倫理的問題について、ケースごとでその背景、事情等を含め文献を検索、取り寄せる。 事後：各ケースの検証から人権や倫理問題に対する分析と社会心理的要因との関連を整理しておく。		
12～15	精神科医療が抱える倫理的問題（諸外国における取組）	英語文献を用い、諸外国における精神科医療における倫理的課題に対する取り組みをクリティークし、わが国との比較を行う。		事前：日本のケースを踏まえた上で、諸外国の文献や書籍をクリティークする。 事後：授業により、比較検討内容を整理する。		

教科書・参考文献など	
<p>参考文献</p> <p>精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本 単行本 - 2009/10/7 大熊 一夫</p> <p>バザーリア講演録 自由こそ治療だ!——イタリア精神保健ことはじめ 単行本 (ソフトカバー) - 2017/10/7</p> <p>フランコ・バザーリア (著), 大熊 一夫 (翻訳), 大内 紀彦 (翻訳), 鈴木 鉄忠 (翻訳), 梶原 徹 (翻訳)</p> <p>精神病院のない社会をめざして バザーリア伝 単行本 (ソフトカバー) - 2016/9/14</p> <p>ミケーレ・ザネッティ (著), フランチェスコ・パルメジャーニ (著), 鈴木 鉄忠 (翻訳), 大内 紀彦 (翻訳)</p> <p>精神疾患と障害差別禁止法 雇用・労働分野における日米法比較研究 単行本 - 2015/12/25</p> <p>所 浩代 (著) 旬報社 (2015/12/25)</p>	
最終到達目標	評価方法
<p>(1) 精神科医療や看護が直面している諸課題を明らかにすることができる。</p> <p>(2) 諸課題・問題を諸外国との比較を行うことで、顕在化されていない要因や構造を理解できる。</p> <p>(3) 取り扱った課題に対し、様々な角度から科学的・論理的分析を行うことができる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する</p> <p>課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)</p>
履修判定基準・評価基準	
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EDD0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括精神看護学特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目の目的は、地域包括精神看護学特論Dを踏まえ、精神保健看護の科学的発展につながる看護介入、介入方法や技術開発、理論構築に向けた研究遂行能力の修得を図る。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、諸外国と我が国の看護学、精神保健看護学の比較および探求を行い、探求による分析および議論を通し、グローバルな視点、さらに新たな介入方法や技術開発、理論構築に向けた独創的な研究課題の絞り込みを学修する。さらに科学的論理的な研究視点および研究プロトコル作成に対する質向上を図る。</p> <p>講義の具体的内容として、地域包括精神看護学特論Dで取り上げた課題に対し、現状や課題の分析および検証だけでなく、介入方法の在り方や支援開発、看護介入方法を見据えた諸外国と我が国の比較を様々な角度から分析し討議する。海外文献も含め先行研究の分析および議論を繰り返し行うことで、調査や予備研究、介入方法や技術開発、理論構築に向けた研究プロトコル作成の方法を習得する。また、分析・討議を通し、ダイバーシティやインクルージョンといった現代社会における共創を見据えた精神看護学研究のあり方を探求する。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1.・2	科目オリエンテーション	30回に渡る授業の構成と取り扱うテーマや課題を決定していく。	事前：地域包括精神看護学特論Dの内容を整理しておく。 事後：授業を踏まえ整理した内容から精神保健看護に関する課題テーマを十分に理解しておく。			
3~12	課題に対する介入方法の在り方について	地域包括精神看護学特論Dで取り上げた課題・問題に対し、構造化し整理した内容に対し、看護介入や支援の側面からその方法を検討する。 看護介入や支援に対する先行文献の整理を行う。	事前：課題に対する看護や支援に関する文献検索を行う。 事後：先行研究における看護介入方法の限界や問題的を整理する。			
13~20	課題に対する海外文献のクリティーク	課題に対する看護介入や支援に関する海外文献を読みクリティークおよび、検討を行う。	事前：英語の文献検索を行う。 事後：英語文献のクリティークを通し、グローバルな視点からの分析を行って行く。			
21~30	課題テーマの概念化	これまでの分析から課題テーマの構造化を行う。	事前：課題テーマに関する先行文献を整理しておく。			
<b>教科書・参考文献など</b>						
参考文献：よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会						
参考文献：看護研究 原理と方法第2版、医学書院						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
<p>(1) 課題に対する看護介入や支援方法の在り方を検討することができる。</p> <p>(2) 精神保健看護に関する国内外の文献をクリティークすることができる。</p>				課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)		

(3) 課題テーマに関する分析から概念化を試み、概念図を作成することができる。	
<b>履修判定基準・評価基準</b>	
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )</p>	

授業コード	EDD0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD05				研究教育力	○
授業科目名	地域包括在宅ケア特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	田中正子 宮崎博子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、あらゆる世代の個人・家族・集団を対象とした地域における看護活動実践者・研究者として、地域アセスメントに関する知識と技術をより深く学び、家族関係に関する理論、地域の社会資源としての組織と人材づくりにおける課題について論述することを目的とする。また、あらゆる健康レベルの個人・家族・集団保健医療福祉の連携と、住み慣れた地域で生き残るために必要な支援、仕組み、人づくりについて言及し、それらの質を高めるための人材育成についても論述する。健康管理と地域づくりの視点から、社会の仕組みと地域包括ケアの意義と役割、課題について詳述する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>田中は臨床看護および訪問看護の経験を生かして授業を展開する。保健医療福祉専門職などの多職種連携が、人々の生涯を通じた生活支援に及ぼす成果と課題、地域の健康を維持し今後の多死社会に必要な地域での看取りの在り方、様々な地域における地域包括ケアシステムについても論述する。宮崎は、行政保健師としての経験を生かして授業を展開する。地域における高齢者、身体障がい者、精神障がい者などの保健医療福祉の現状について論じる。また、各発達レベル、健康レベルで抱える身体的、心理社会的課題について実践の場から、あるいは既存の文献を活用し、地域看護管理について論述する。またリスクマネジメントとデータマネジメントについて、さらに危機管理に関する一体的活動についても学修する。そして、地域社会全体の健康を維持するための管理の在り方と人づくりについても言及する。</p> <p>(オフィスアワー：田中；水曜日 13：20-14：50 宮崎；月曜日 12:20~13:00)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス 地域の現状 (田中)	日本の人口と社会保障の概要について、講義、履修生との討議等により進める。	国民衛生の動向等を読み、社会保障制度の概要と地域の現状について調べておく。事後学習は地域の現状について考察しまとめる。	適時提示する。		
2	地域・在宅看護活動に関連する法制度の現状(田中)	地域・在宅看護活動の基盤となる法・制度制定までのしくみ、看護職能団体等について講義、履修生との討議等により進める。	地域・在宅看護活動の基盤となる法制度の改正の動きと、看護職能団体としての活動を調べておく。事後学習は、法制度と看護職能団体との関連について考察しまとめる。	適時提示する。		
3	地域におけるサービス提供システムの実情(田中)	医療・介護保険サービスの提供システム等について講義、討議により、看護学上の課題と対策を検討する。	医療保険、介護保険サービス利用上の課題を調べ、在宅ケアシステム構造を確認しておく。事後学習は地域のサービス提供システムの実情について考察しまとめる。	適時提示する。		
4	医療依存状況にある療養者・障がい者の在宅ケアシステム(田中)	医療依存状況にある療養者・障がい者の在宅ケアシステムについて、講義、履修生との討議等により進める。	地域で生活している療養者の環境や疾患等について確認しておく。事後学習は、医療を必要とする療養者等について考察しまとめる。	適時提示する。		
5	保険制度による地域包括ケアシステムの整備と課題(田中)	医療介護総合確保推進法による地域包括ケアシステムの整備の現状について講義、討議等により進める。	医療介護総合確保推進法による地域包括ケアシステムについて調べておく。事後学習は、保険制度による地域包括ケアシステムの整備と課題について考察しまとめる。	適時提示する。		
6	諸外国における地域ケアの現状(田中)	諸外国における地域ケアの現状について講義、履修生との討議等により進める。	地域包括ケアの諸外国の現状を調べておく。日本との相違点を確認しておく。事後学習は、諸外国との相違点、課題について考察しまとめる。	適時提示する。		

7	QOL を高める地域での暮らしに向けた看護の役割とネットワーク構築・強化への課題 (田中)	多様な地域生活者のQOLを高める地域包括ケアシステム・ネットワークの検証と看護の役割について講義、履修生との討議等により進める。	QOL を高めるためのケアシステム、ネットワーク構築に関する研究等を調べておく。 事後学習は、自研究テーマと照合し、打開策を考察しまとめる。	適時提示する。
8	多死社会における看取りとケアシステムの課題 (田中)	最後まで地域で生活し、望む人生の最終を迎えるためのケアシステムについて講義、履修生との討議等により進める。	関連する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 今までの講義、討議等から、到達目標を加味し課題を決め、レポートを提出する。	適時提示する
9	地域の健康管理、予防活動の実態と課題 (宮崎)	地域の健康管理活動・生活習慣病予防活動に関する地区踏査・ICT 活用による地域ストレス・ウイークネスの分析	地域の健康情報を確認しておく。成功している ICT 活用、これから活用を予定している AI, DX のシステム展開を調べておく。 今後の看護の方向性を考察	適時提示する。
10	保健医療福祉の現状 (宮崎)	地域における、高齢者・身体障がい者・精神障がい者などの保健医療福祉の現状・課題 講義と討議を行う。	関連する文献や国民衛生の動向などを熟読しておくこと。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。
11	身体的、心理社会的課題 (宮崎)	各発達レベル、健康レベルにおける身体的、心理社会的課題と地域看護管理 講義と討議を行う。	関連する文献の検索や、これ迄学修したテキストを復習しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
12	にも包括ケアシステム (宮崎)	にも包括ケアシステムの強化推進 講義と討議を行う。	にも包括ケアシステムに関する報告書を読んでおく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
13	リスクマネジメント、データマネジメント、健康危機管理 (宮崎)	健康危機管理と地域ヘルスケアシステム 講義と討議を行う。	健康危機管理に関する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
14	健康危機管理 (宮崎)	感染症を中心とした危機管理活動 講義と討議を行う。	感染症に対する公衆衛生看護活動に関する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
15	地域包括ケア (宮崎)	住民の健康の保持増進のための管理・地域包括ケア 講義と討議を行う。 まとめを行う。	関連する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。  事後学修は、レポートを課す。	適時提示する

教科書・参考文献など

教科書は指定しない。適時、提示、または配布する。参考図書：国民衛生の動向 2023/2024

最終到達目標

- ①高齢者及び障がい者の保健医療福祉介護制度の現状について考察できる。
- ②地域における看取りおよびケアシステムについて考察できる。
- ③にも包括について、理解でき、自分の考えを述べるができる。
- ④地域看護管理の意義、健康危機管理活動について述べるができる。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する。筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

評価基準

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD06				研究教育力	○
授業科目名	地域包括在宅ケア特別演習 D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	田中正子・宮崎博子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、地域・在宅看護領域における看護活動実践者・研究者としての視点で、地域の持つ課題を明らかにし、その課題解決のための実践的展開の質向上を目指すための科目である。あらゆる世代において存在する、地域のストレンクスとウィークネスを分析し、健康関連の問題解決のための戦略を検討する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>健康関連の問題解決のための戦略を検討するために、保健医療福祉の制度に関する国、県、市町など行政の動向と、制度づくり、システムづくりの場のフィールドワーク、及び既存の報告書などから理解し、地域における看護活動研究への示唆が得られるよう授業展開する。</p> <p>科目担当者は、臨床看護及び訪問看護の実務経験をもつ教員と、行政保健師の実務経験をもつ教員2名で担当する。授業は、文献検索・教員の実務経験を活かした講義と討議、先駆的事例のフィールドワーク及び情報収集、プレゼンテーションで展開する。</p> <p>多様な対象に改革的地域包括ケアを提供する保健医療福祉の高度な専門性が問われる中、地域住民の生涯を通じた生活支援の課題を、授業計画に示した研究的視点から検証・学修する。</p> <p>(オフィスアワー：田中正子 水曜日 12:20～13:00 宮崎博子 月曜日 12:20～13:00)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション(田中)	①人口・経済・社会保障の構成及び関係法規	配付された資料を読んでおく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
2	ソーシャルキャピタル(田中)	②地域在宅を支えるソーシャルキャピタル 講義と討議	複数の文献を検索し、読み込んでおく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
3	医療・介護サービス、社会資源(田中)	③医療・介護・公共サービスと民間活動 講義と討議	文献を複数、検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
4	介護保険制度 地域包括ケアシステム(田中)	④介護保険と地域包括ケアシステム(ネットワーク)の新しい潮流 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
5	地域ストレンクス(田中) ウィークネス	⑤ICT活用による地域ストレンクス・ウィークネスの分析 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
6	医療依存状況下にある人のQOL追究(田中)	⑥医療依存状況にある高齢者の生活支援 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		

7	健康寿命の延伸 (田中)	⑦健康増進・健康寿命伸展活動 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。 事後学修はレポートを課す。	適時提示する。
8	QOL 地域生活支援ネットワーク (田中)	⑧憲法に則った QOL を高める地域生活支援ネットワークの検証 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。
9	先駆的活動事例 (田中)	これまでの、文献研究と講義・討議により、研究テーマを選び、先駆的事例を検討・決定。フィールドワークの計画を立て、発表する。	文献を複数検索の上熟読しておく。 事後学修は、レポートを課す。フィールドワークの計画を立案する。	適時提示する。
10	フィールドワーク (田中)	計画の発表。フィールドワーク先の組織・情報を収集する。調査内容を検討・決定する。	計画発表の準備。 決定した調査内容を実施するにあたり、進め方を熟考。	適時提示する。
11	先駆的活動 (田中)	フィールドワーク 先駆的な取り組みを行うリーダーの特性。契機。訪問先の組織・マネジメントを知る。	当日の現地での調査がスムーズに進められるよう準備しておく。 事後学修では、調査結果を整理し、記録しておく。	適時提示する。
12	リーダーシップ (田中)	フィールドワーク トップリーダーのマネジメント・リーダーシップを知る。	当日の現地での調査がスムーズに進められるよう準備しておく。 事後学修では、調査結果を整理し、記録しておく	適時提示する。
13	評価方法 (田中)	フィールドワーク 先駆的な取り組みに関する分析・評価（活動のリーダー及び活動に関わる住民・職員からも意見を聞く。）	調査内容を正確に文字化し、項目ごとに整理しておく。 事後学修では、プレゼンテーションの内容を吟味し、検討する。	適時提示する。
14	フィールドワーク分析・評価 (田中)	プレゼンテーションの準備 フィールドワークの結果を分析・評価し、プレゼンテーションできるよう準備する。	プレゼンテーションの案を資料化しておく。 プレゼンテーションの準備を行う。	適時提示する。
15	フィールドワーク評価・発表 (田中)	プレゼンテーション・発表・評価 発表し、振り返りを行う。	プレゼンテーション準備・レポート課題を課す。	適時提示する。
16	後半オリエンテーション(宮崎) 成人期の保健医療福祉制度	本講義の目標や概要を説明する 地域で生活する成人期の保健医療福祉制度の現状と課題・対応 討議・先駆的事例の検討	事前学修：左記の視点から、文献を複数検索。資料化しておく。 事後学修：授業後は、レポートにまとめ提出する。	適時提示する。

17	障がい者の保健医療福祉制度（宮崎）	地域で生活する障がい者の保健医療福祉制度の現状と課題・対応 討議・先駆的事例の検討	事前学修：文献を検索し、資料化する。 事後学修：討議後、レポートを課す。	適時提示する。
18	地域生活する障がい者の生活と人々の心理に影響を与える要因と地域看護（宮崎）	障がい者の生活と、人と人との集団心理状態、孤立による心理、感染症に関する心理変化等を含め地域看護の在り方を論じる。 討議・先駆的事例の検討	事前学修：文献を検索し、資料化する。 事後学修：討議後、レポートを課す。	適時提示する。
19	健康危機管理リスクマネジメント（宮崎）	地域における健康危機管理とリスクマネジメント 健康危機管理と課題、問題解決について多角的な観点から議論 討議・先駆的事例の検討	事前学修：文献を検索し、資料化する。 健康危機管理と課題、問題解決について多角的な観点から議論 事後学修：授業で学修した課題を整理し、そのうえで、地域の看護活動研究に繋がる実践事例を選択。フィールドワークの計画を立案する。	適時提示する。
20	フィールドワーク計画（宮崎） 健康課題の発見	フィールドワークの計画発表・評価 フィールドワーク先の組織・地域の健康課題を情報収集・分析	事前学修：計画案を作成、配布用に資料化しておく。 事後学修：地域の情報を検索し資料化しておく。 フィールドワーク調査内容の検討	適時提示する。
21	フィールドワーク（宮崎） 先駆的事例の確定	フィールドワーク先決定・調査内容の確認・討議、決定	事前学修：フィールドワーク先の地域の健康課題や情報及び文献を検索し、資料化する。 事後学修：調査内容を修正、準備する。	適時提示する。
22	フィールドワーク（宮崎） 現地訪問による調査	①フィールドワーク：先駆的取り組みの契機・トップリーダーの特性を知る。 ②フィールドワーク：訪問調査先の組織・マネジメントを知る。 ③フィールドワーク：トップリーダーのマネジメント・リーダーシップを知る。 ④フィールドワーク：先駆的取り組みについてリーダー及び活動に関わる住民・職員からも意見を聞く。	事前学修：フィールドワークに向けて準備を行う。 当日の現地での調査がスムーズに進められるよう準備しておく。 事後学修：調査結果を整理し、記録しておく。調査内容を正確に文字化し、項目ごとに整理しておく。	適時提示する。
23				
24				
25				

26	フィールドワーク分析（宮崎）	フィールドワーク：先駆的取り組みについて分析・討議	事前学修：調査内容を整理し、資料化する。 事後学修：討議した内容を更に熟考する。	適時提示する。
27	フィールドワーク分析・評価（宮崎）	フィールドワーク：先駆的取り組みについて分析・評価	事前学修：分析結果を資料化しておく。 事後学修：プレゼンテーション内容の計画案を作成する。	適時提示する。
28	プレゼンテーション媒体作成（宮崎）	プレゼンテーション内容検討・媒体を作成する	事前学修：プレゼンテーション内容を資料化しておく。 事後学修：発表準備を進める。	適時提示する。
29				
30	結果発表（宮崎）	プレゼンテーション（結果発表）・まとめと評価	事前学修：プレゼンテーション・評価 事後学修：レポートにまとめ提出する。	適時提示する。

#### 教科書・参考文献など

教科書については、プリント資料を配布予定。参考文献は、適時、提示する。

#### 最終到達目標

1) 地域包括ケアの組織的課題へのアプローチに参考となる、先駆的な取り組みをしている事例を広い視野をもち見つけ出すことができる。  
2) 先駆的な活動事例について、成功の要因、重要な事柄・実践者の能力などについて、論理的に分析、説明できる。

#### 評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する  
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

#### 評価基準

評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)
  - B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
  - C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
  - D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)
- ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0702			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD07				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
<b>授業の目的</b>						
本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、臨床志向で、臨床と教育の往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。						
<b>授業の概要</b>						
担当教員が展開する授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。 (オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究課題の 焦点化	自らが取り組むことを目指す研究課題について既存の文献を検索し、研究としての意義を視野に入れて、研究課題を焦点化にする。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
2						
3						
4						
5	研究デザインの 選定	焦点を当てる現象を明らかにして、適切な研究デザインを選定する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
6						
7						
8	研究デザインの 選定	焦点を当てる現象を明らかにして、適切な研究デザインを選定する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
9						
10						
11	研究方法の検討	対象者、データ収集方法、データ収集期間の検討を行う。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
12						
13	倫理的配慮の検討	研究課題を遂行するにあたり必要な倫理的配慮法を検討する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
14	研究計画書の作成	中間発表会で計画を発表できるように作成を目指す。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
15	倫理審査申請書の作成	倫理審査申請書の作成を目指す	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
<b>教科書・参考文献など</b>						
適時提示						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
研究計画書と倫理審査申請書の作成ができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 計画書(70%)・申請書(20%)・ プレゼンテーション(10%)		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0703			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学的指標を用いた対象者のセルフコントロールの開発</li> <li>2. 地域生活を基盤とした精神疾患をもつ対象者とその家族への支援方法の開発</li> <li>3. 精神保健医療の独自構造におけるヒューマンサイエンスの果たす倫理的課題解決に向けた研究など</li> </ol> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、概念図および研究計画書の作成、その後、11月に研究計画発表を行い、指導を受ける。研究計画書および指導を基に、予備研究の研究計画書を作成し、3月を目途に倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:00-13:30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	授業スケジュールについて	今後の授業スケジュールを組み立てる	事前：自身の年間スケジュールの把握 事後：関心ある研究テーマの文章化を行う。	大学院要覧 関連文献		
2	文献検討から課題の分析	自身の個別テーマに関する文献検討を行い、課題の分析を行う。	事前および事後：文献検討を繰り返し、関心ある研究テーマに関する課題の分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析から、自身の研究テーマを決定する。	事前：課題の分析から自身の研究テーマの絞り込みを図る。	関連文献		
7	概念図および研究計画書作成	研究テーマ決定後、研究計画発表会に向け、概念図や研究計画書を作成する。	事前：これまでの文献検討および課題の分析をまとめておく。			
8						
9						
10						
11	研究計画発表準備	11月の研究計画発表に向けて準備を行う。	事前：研究計画書を作成しておく 事後：研究計画発表に向け、練習を重ねる。			
12	研究計画発表	研究計画発表を行う。	事前：指摘される点の洗い出しを行っておく。 事後：指摘された点の整理			
13	研究計画書完成	研究計画発表で指摘を受けた内容を再検討し、研究計画書を完成させる。	事前：研究計画発表で指摘を受けた点を、整理しておく。			
14	倫理申請書の作成	3月の倫理審査委員会への申請に向け、倫理申請書を作成する。	事前：研究計画書を完成させておく。			

15	倫理審査委員会への申請	倫理審査委員会への申請を行い、承認を得る。	事前：倫理審査委員会に倫理申請書を提出する。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。</li> <li>・概念図および研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。</li> <li>・研究計画書を完成させることができる。</li> <li>・予備研究における倫理審査申請書を提出することができる。</li> </ul>			<b>評価方法</b> 課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )				

授業コード	EDD0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD08				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	岡多枝子					
<b>授業の目的</b>						
本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って研究目的を達成する調査を遂行して、新規性と独創性のある研究論文を学術誌に投稿することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
研究実施に際して、研究倫理に則った研究協力への依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性と独創性、社会的意義と研究的意義のある研究論文を学術誌に投稿する。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション：研究活動推進、調査実施	研究計画に基づく研究データの収集。研究倫理原則に則った丁寧で良質のデータが収集できる研究計画の立案。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	中間発表：データ解析結果と考察(2年次11月)	1段階の調査を集計・分析して果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切にする。	データの分析を行う。結果を出し、考察し、結論を導き、発表する準備をする。質疑の内容を加味し、論文に活かす。次の調査の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学会発表と副論文投稿	学会発表及び論文を投稿する。	中間発表でのリフレクションをもとに研究課題に見合う学会での口頭発表、および論文投稿を行う。	副論文		
13						
14						
15	投稿論文の査読承認、掲載決定	各雑誌の執筆要領と論文審査に則って、論文の完成度を挙げて掲載が決まる。	第1段階から次段階の調査へ移行し、調査を始める。	査読論文		
16						
<b>教科書・参考文献など</b>						
D.F. ポーリット他：看護研究，原理と方法，医学書院，2010. 10,450円 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ，日本看護協会出版会，2020. 3,520円 その他、研究方法に沿った参考書						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
自己の研究計画に追って調査を実施し、倫理的配慮を徹底して実施したうえでデータの収集ができる。 収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。 学会での口頭発表、および副論文の投稿ができ査読で承認される。				課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0802			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD08				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
<b>授業の目的</b>						
本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように調査を遂行することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。 (オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～5	データ収集	研究計画書に沿って倫理的配慮を行いながら、第1段階の調査を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
6～10	データ入力と分析	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
11	結果のまとめ	計画書に沿った適切な方法で結果を整理する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
12 13	考察	論理性、整合性、一貫性を維持しながら考察を記載する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
14	学内発表	中間発表の資料を作成し、発表会に臨む。	学修課題に沿った準備	適時提示		
15	副論文の投稿	学会発表及び論文の投稿を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
<b>教科書・参考文献など</b>						
適時提示						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
研究課題の一部を副論文として投稿できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 副論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)		
<b>履修判定基準・評価基準</b>						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EDD0803			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように調査を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学的指標を用いた対象者のセルフコントロールの開発</li> <li>2. 地域生活を基盤とした精神疾患をもつ対象者とその家族への支援方法の開発</li> </ol> <p>精神保健医療の独自構造におけるヒューマンサイエンスの果たす倫理的課題解決に向けた研究など</p> <p>本科目は、1年次の3月に倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受けた後に修正を行い、倫理審査委員会の承認を得る。承認を得た予備研究を前期期間にデータ収集および分析を行う。その後、9月には中間Ⅰ発表会や論文投稿に向けた論文作成を行い、11月には中間Ⅰ発表会を行い、その意見を踏まえ、本研究の研究計画書の作成修正を行い、随時本研究の倫理審査申請を行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:30-13:30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 2	研究計画書の修正	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正を行う。	事前：倫理審査結果を把握する。 事後：倫理審査結果を踏まえた修正およびコメントを行い、再提出を行う。	関連文献		
3～ 5	研究の実践	倫理審査委員会の承認を得た後、研究計画書に基づき、研究を行い、データの収集を進める。	事前：研究を行うための、事前準備を十分に行う。 事後：データの収集および保管を徹底する。			
6～ 8	データ分析	収集したデータの分析を行う。	事前：収集したデータの入力および、統計解析の手法を理解しておく。 事後：集計や統計解析を行い、データの分析を進める。			
9～ 12	中間発表会Ⅰに向けた研究成果の報告作成および副論文の投稿準備	データの分析結果を踏まえ、研究成果報告、中間Ⅰ発表会の資料を作成する。本研究成果の内容は、副論文として学術誌への投稿準備を行う。	事前：分析結果をまとめる。 事後：発表要領に従った作成を行う。また、学術誌への投稿準備を行う。			
13 ～ 15	中間Ⅰ発表会後の本研究の倫理審査申請書作成	中間Ⅰ発表会での指摘を受け、本研究に向けた研究計画の修正、倫理審査申請を行う。	事前：指摘された箇所を正確に理解しておく。 事後：研究計画書の修正を行い、本研究のための倫理審査申請を行う。			

教科書・参考文献など	
最終到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予備研究の倫理審査委員会の承認を得ることができる。</li> <li>・ 研究計画書を基に、研究を行い収集したデータの分析を行うことができる。</li> <li>・ 論文を作成し、中間 I 発表会や学術誌投稿を行うことができる。</li> <li>・ 中間 I 発表会後の本研究の研究計画の修正および、倫理審査申請書の提出を行うことができる。</li> </ul>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する  課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)</p>
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDD0901			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD09				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	岡多枝子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目の目的は、「地域包括ケア特別研究ⅠD」・「地域包括ケア特別研究ⅡD」で2年間にわたって究明し蓄積してきた調査・研究成果を博士論文として纏めることである。研究題目や目的を踏まえた信頼性と妥当性を深く考察して、臨床電場で実践可能な社会的・研究的意義がある論文として完成させる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアにおける対象者・家族のセルケアと健康寿命延伸の可能性の検討。</li> <li>2. 身体的・精神的・社会的健康の回復・維持・向上に向けた地域生活に困難がある対象者とその家族への支援方法の質的（KJ法）及び量的（統計解析）研究によるトライアングレーション。</li> <li>3. 保健医療福祉教育などの専門職連携による地域生活の持続可能性に向けた課題解決に関する研究。</li> </ol> <p>本科目では、2年次に本研究に関する倫理審査委員会の倫理審査と修正、承認を得ている。3年次4月からデータ収集と分析、副論文作成と投稿、学会発表を行い、6月から中間Ⅱ発表会と予備審査に向けた博士論文作成を進める。11月に中間Ⅱ発表及び予備審査申請を行い、中間Ⅱ発表会と予備審査での指導を踏まえて、本審査に向けた博士論文の修正を行う。1月に博士論文提出、本審査を受け、2月に博士論文最終審査、最終試験を受ける。試験合格決定を受けて博士論文最終発表を行い、3月に博士（看護学）の学位を取得する。</p> <p>(オフィスアワー：火・水・木 12：30-13：30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～2	研究計画書修正とデータ収集・分析	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正、データ収集と統計解析及びKJ法による質的研究を行う。	事前学修：研究計画書検討・修正。 事後学修：データ収集と分析・考察を踏まえた副論文の作成。	関連文献  随時提示する。		
3～4	副論文の検討と学会発表の資料作成	研究の第1・第2段階の結果に基づく副論文の検討と、学会発表の資料を作成する。	事前学修：副論文の投稿準備と学会発表の情報収集。 事後学修：副論文の投稿、データ保管の徹底を図る。			
5～6	副論文の修正・提出。学会発表準備	副論文の査読結果を受けた修正と提出、学会発表のリハーサルを行う。	事前学修：副論文再提出の準備と学会参加・発表の申し込み。 事後学修：学会発表。			
7～8	中間Ⅱ発表会準備	中間Ⅱ発表会に向けた研究成果の報告資料を作成、発表会のリハーサルを行う。	事前学修：中間Ⅱ発表会準備。 事後学修：発表要領に従った資料の完成・時間管理。			
9～10	中間Ⅱ発表会・予備審査準備	中間Ⅱ発表会で発表を行うとともに指摘を受けて再検討し、予備審査申請書の作成を行う。	事前学修：発表会の指摘を考察。 事後学修：予備審査を受ける。			
11～13	本審査の準備・博士論文修正	予備審査の結果を受けて博士論文の修正を行い、本審査に向けた博士論文の修正を行う。	事前学修：予備審査で指摘された箇所の確認。 事後学修：本審査の申請を行う。			
14	本審査	本審査を受けて最終発表会に向けた修正を行う。	事前学修：指摘を受けて修正。 事後学修：博士論文最終発表会準備。			
15	博士論文最終発表会・博士論文提出	博士論文最終発表会で発表する。	事前学修：博士論文最終発表会リハーサル。資料の完成・時間管理。 事後学修：博士論文を提出する。			

教科書・参考文献など	
随時提示する。	
最終到達目標	評価方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理審査委員会の承認を得た研究計画書を基に調査研究を遂行して、副論文の作成・学術誌投稿や、学会発表を行うことができる。</li> <li>2. 博士論文を作成して中間Ⅱ発表会において発表することができる。</li> <li>3. 予備審査・本審査・最終試験を受けることができる。</li> <li>4. 博士論文最終発表会で発表して博士論文を提出することができる。</li> </ol>	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(100%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDD0902			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD09				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
<b>授業の目的</b>						
本科目は、特別研究ⅠD・ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。						
<b>授業の概要</b>						
一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究成果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の各領域の看護学に発展的に貢献することが可能であることを重要視して、論旨を展開する。 (オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～5	データ収集	研究計画書に沿って倫理的配慮を行いながら、最終段階の調査を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
6～10	データ入力と分析	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
11	結果のまとめ	計画書に沿った適切な方法で結果を整理する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
12 13	考察	論理性、整合性、一貫性を維持しながら考察を記載する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
14	学内発表(11月)	博士論文の中間発表に臨む。	学修課題に沿った準備	適時提示		
15	学内発表(2月)	博士論文の最終発表に臨む。	学修課題に沿った準備	適時提示		
<b>教科書・参考文献など</b>						
適時提示						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆(90%)・プレゼンテーション(10%)		
<b>履修判定基準・評価基準</b>						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EDD0903			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
授業の目的						
<p>本科目は、地域包括ケア特別研究ⅠD・ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究成果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であることを重要視して、論旨を展開する。</p>						
授業の概要						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <p>1. 生理学的指標を用いた対象者のセルフコントロールの開発 2. 地域生活を基盤とした精神疾患をもつ対象者とその家族への支援方法の開発</p> <p>精神保健医療の独自構造におけるヒューマンサイエンスの果たす倫理的課題解決に向けた研究など</p> <p>本科目は、2年次に本研究に関する倫理審査を受け、その後、修正を行い、倫理審査委員会の承認を得る。承認を得た本研究を前期期間にデータ収集および分析を行う。9月には中間Ⅱ発表会と予備審査に向けた博士論文作成を行い、11月には中間Ⅱ発表会を行い、予備審査申請を行う。中間Ⅱ発表会および予備審査の指導を踏まえ、本審査に向けた博士論文作成修正を行い、1月に博士論文提出、本審査を受ける。さらに、2月に博士論文最終審査、最終試験を受ける。合否決定後、博士論文最終発表会を行う。これらの一連の流れを終え、3月博士(看護学)取得となる。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:30-13:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～2	本研究における研究計画書の修正	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正を行う。	事前：倫理審査結果を把握する。 事後：倫理審査結果を踏まえた修正およびコメントを行い、再提出を行う。	関連文献		
3～4	本研究の実践	倫理審査委員会の承認を得た後、研究計画書に基づき、研究を行い、データの収集を進める。	事前：研究を行うための、事前準備を十分に行う。 事後：データの収集および保管を徹底する。			
5～6	データ分析	収集したデータの分析を行う。	事前：収集したデータの入力および、統計解析の手法を理解しておく。 事後：集計や統計解析を行い、データの分析を進める。			
7～8	中間Ⅱ発表会に向けた研究成果の報告作成	データの分析結果を踏まえ、研究成果報告、中間Ⅱ発表会の資料を作成する。	事前：分析結果をまとめる。 事後：発表要領に従った作成を行う。			
9～10	中間Ⅰ発表会後の予備審査申請書作成	中間Ⅱ発表会での指摘を受け、予備審査書の作成および申請を行う。	事前：指摘された箇所を正確に理解しておく。 事後：予備審査申請を行う。			
11～13	本審査に向けた博士論文作成	予備審査を受け、本審査に向けた博士論文の修正を行い、本審査へ博士論文を提出する。	事前：指摘された箇所を正確に理解しておく。 事後：本審査申請を行う。			

14	本審査	本審査を受け、最終審査に向けた修正を行う。	事前：本審査での指摘を理解し、修正を図る。 事後：最終審査への申請を行う。	
15	博士論文最終発表会	本審査を終え、博士論文最終発表会を行う。	事前：博士論文最終発表会に向けた準備を行う。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究の倫理審査委員会の承認を得ることができる。</li> <li>・研究計画書を基に、研究を行い収集したデータの分析、論文を作成し、中間Ⅱ発表会や学術誌投稿を行うことができる。</li> <li>・中間Ⅱ発表会后、予備審査に向けた修正および、予備審査申請を行うことができる。</li> <li>・本審査申請を行うことができる。</li> <li>・最終審査を受け、博士論文最終発表会で発表を行うことができる。</li> </ul>			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(100%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				